

出版案内

2022 / Spring

風響社

土地靈籤

第二籤

上吉

盈虛消息總天時
自此君當百事宜
若問前程歸縮地
更須方寸好修爲

解曰

訟宜和 病宜禱 功名有 遲速宜 財平 問婚好 若妄爲 身莫保

萬事乘除

隨時而處

否極泰來

事無阻礙

若保則吉

更可修爲

切莫妄動

萬福來宜

禍福從天降

心仁萬事宜

若還無妄作

災散禍消除

此千謀望虛音不宜速進且須待時方可成就婚則合訟宜和求財有行人至

孕生女病宜禱大概以仁心修福爲要

東土神雙夫人廟在朝陽門外東大橋下路北

目次

| | |
|-------------------|----|
| ● 人類学専刊 | 3 |
| ● 人類学集刊 | 16 |
| ● 歴史・考古・言語 | 23 |
| ● 民俗・宗教・文学 | 27 |
| ● 芸能・演劇・音楽 | 29 |
| ● 文化遺産・観光・建築 | 31 |
| ● 社会・経済・環境・政治 | 32 |
| ● 書誌・資料・写真 | 34 |
| ● 台湾原住民族研究資料叢書 | 36 |
| ● モンゴル学研究基礎資料 | 37 |
| ● アジア研究報告 | 39 |
| ● アジア文化基本文献 | 41 |
| ● アジア・ワールド文化双書 | 42 |
| ● あじあ選書 | 49 |
| ● あじあブックス | 50 |
| ● あじあブックス別巻 | 51 |
| ● 風響社ブックレット | 52 |
| ● ブックレット〈アジアを学ぼう〉 | 54 |
| ● 文化人類学ブックレット | 64 |
| ● 雑誌 | 65 |

・説明文にある「9306/30-8/224」等の数字は、「1993年6月発行/ISBN4-938718-30-8/224頁」を意味し、書籍ごとの「発行年月/ISBN/頁数」を示します。
 ・小社のISBNは「4-938718-##-#」「4-89489-###-#」の二種類です。したがって末尾番号も3桁と4桁の二通りとなります。10桁コードには下線を付します。
 ・FODは「風響社オンデマンド」の略称で、並製型入りカバー装とオンデマンド印刷を組み合わせた、小社の新しい学術書出版のスタイルです。

● 人類学専刊

| | | |
|----------------------------|----------|--|
| 瀬川昌久著 客家 | 品切 品薄 | 「客家特殊論」を人類学の立場から批判検証し、その歴史と実像を解明。漢族と少数民族の境界地域に華南に見られる「民族意識」の生成と変容のメカニズムから、中国全体のエスニシティーに新たな論点を提示。(洗澤賞受賞) 9306/30-8/224 A5上製カバー/四五〇〇円 |
| 瀬川昌久著 華南漢族のエスニシティーとその境界 | 品切 品薄 | 人類学の立場から族譜の記載を徹底検証し、その風構性と事実に潜む漢族の歴史意識の初原形態を追求。宗族の形成や風水、移住伝承など複雑多様な記述を、フィールドの中から捉え直した画期的な論考。 9610/32-4/276 A5上製カバー/四五〇〇円 |
| 瀬川昌久著 族譜 | 品切 品薄 | おびただしい豚の撲殺が階梯の登攀に不可欠な社会。平和な島に残る様々な秘儀を、人類学の立場から精密に記述解説し、親族・婚姻体系、政治体系研究に新たな理論を提示。オセアニア研究に再検討を迫る。 [大平正芳記念賞受賞] 9801/34-0/524 A5上製型入/九五〇〇円 |
| 吉岡政徳著 メラネシアの位階階梯制社会 | | 生業・歴史・親族・行事など、ハノイ近郊村落の民族誌の詳細を記述し、東アジアの視点から祖先祭祀の構造と特色を分析。CDは60分余のビデオ映像を含むマルチメディア民族誌、字喃郷約の対訳、屋敷分布図、調査カード等を取録。 9803/35-9/448 A5上製型入/一五〇〇〇円 |
| 末成道男著 ベトナムの祖先祭祀 | | 河北省の農村に伝わる「樂亭大鼓」は、「曲藝」「説唱」と呼ばれる演唱音楽の一つで、「文盲」の演者によって口承されてきた。その優れた口頭創作性を、民族音楽学の観点から分析し、「無文字文化」としての中国文化に焦点をあてる。 9903/39-1/254 A5上製カバー/四五〇〇円 |
| 井口淳子著 中国北方農村の口承文化 | | 宗族≠父系出自を分析対象としてきた従来の漢民族研究の欠を補い、姻戚≡「妻の父と母の兄弟」の果たす役割を初めて本格的に分析。親族・婚姻体系研究に不可欠な「家族」の全体像を、社会関係や家族内部から描き出した画期的論考。 0002/000-3/432 A5上製型入/七四〇〇円 |
| 植野弘子著 台湾漢民族の姻戚 | | |

河合利光著
身体と形象
ミクロネシア伝承世界の民族誌的研究

チユーク(トトラック) 環礁に伝承されてきた伝統的知識体系「イタン」。それは、身体の隠喻としての「箱」、生命の隠喻としての「石」等、形象認識に基づく世界観をなす。本書は、消滅しつつある知的遺産の詳細な記録分析である。 0101/002-X/450 A5上製カバー／七〇〇〇円

王 維著
日本華僑における伝統の再編と
エスニシティ 祭祀と芸能を中心に

長崎・横浜・神戸の三大中華街における華僑社会を比較し、その来歴、親族・同郷組織を紹介。激変する日本社会にあつて、たえず再編される祭祀や芸能を通し、在日コミュニティの特色を明示し、その多様なエスニシティの実態に迫る。 0102/003-X/360 A5上製カバー／七〇〇〇円

岡田浩樹著
両班
変容する韓国社会の文化人類学的研究

「両班化」(一)現代韓国に顕著な社会的・文化的上昇志向)の概念をフィールドから再検討。両班化の主体としての「門中」、実地の場としての儒式儀礼に焦点をあて、李明末期から今日にいたる社会変化の中でその本質を探る。 0102/004-6/320 A5上製カバー／六〇〇〇円

白川千尋著
カストム・メレシ
オセアニア民間医療の人類学的研究

ヴァヌアツ・トンゴア島民は、西洋医療では治せない邪術や精霊による病を、カストム・メレシと呼ぶ民間医療で対処している。本書はその治療法を詳述し、メラネシアにおける伝統と近代の相克を描く。「第一回白オセアニア学会賞」 0111/005-4/24 A5・FOD／六〇〇〇円

渡邊欣雄著
風水の社会人類学
中国とその周辺比較

中国・香港・台湾・沖縄・韓国など関係地域の隈無い調査、そして精密な文献渉猟―人類学・歴史学の成果を踏まえ、第一人者が示す風水研究の到達点。多様な相貌の奥にある東アジアの「気」の認識論・存在論を明かにした画期的論考。 0112/009-7/470 A5上製カバー／八〇〇〇円

潘 宏立著
現代東南中国の漢族社会
閩南農村の宗族組織とその変容

永く「残された中国」の調査により推定・遠望されていた現地の、初めての本格的調査を踏まえた論考。戦後の政治的変動を経て、復興・再生されつつある宗族組織の実態を、伝統の再構成および多様な現状の側面から詳細に分析・紹介。 0202/010-0/416 A5上製カバー／七四〇〇円

田口理恵著
ものづくりの人類学
インドネシア・スンバ島の布織る村の生活誌

「布を作る人」が媒介する様々な社会的関係や生活の意味を検討。モノから「モノ」を見るような従来の視点の逆転させ、「モノ」が作る人の関係に着目。物質文化研究に新たな方法論を提起。「第三回日本オセアニア学会賞」 0212/012-7/424 A5上製カバー／八四〇〇円

外川昌彦著
ヒンドゥー女神と村落社会
インド・ベンガル地方の宗教民俗誌

カーストや階層、集落や世帯の多様さを、女神祭祀を中核とし相互に密接に連関した複合的ネットワークとして描き出し、同時に王権・カースト・親族・ジェンダーなど、南アジア人類学の課題の核心に迫る。画期的なモノグラフ。 0302/013-5/360 A5上製カバー／一〇〇〇〇円

シンジルト著
民族の語りの文法
中国青海省モンゴル族の日常・紛争・教育

チベット族に囲まれ同化しつつある地域において様々な局面で語られる「民族」言説を掬い上げ、位相とベクトルを分析。巨視的な議論が見落とされてきた等身大の民族像を呈示。語られてきた側からの主体的自画像を探る。【洪澤賞受賞】 0309/016-X/358 A5上製カバー／四〇〇〇円

吉田世津子著
中央アジア農村の親族ネットワーク
クルグズスタン・カラタル村の経済移行と社会変化

ウ連崩壊により社会主義生産システムの安定を奪われた中央アジア・クルグズスタン(キルギス)庶民。直面した急激な生活・文化変動の中で、伝統的な親族ネットワークが果たした役割。歴史と庶民生活の交錯を、文献と調査から詳述。 0402/017-8/390 A5上製カバー／八四〇〇円

全 京秀著／岡田浩樹・陳 大哲訳
韓国人類学の百年〔普及版〕

植民地時代、戦後の混乱期を含め、描くことの困難な自画像にあえて挑戦した渾身の著作。丹念かつ冷静な歴史の発掘から、植民地主義、オリエンタリズムの対象となった民族からの、「人類学研究」に対する真摯な問いかけが浮かび上がる。 0408/026-7/368 A5並製カバー／六〇〇〇円

王 向華著
友情と私利〔普及版〕
香港一日系スーパリーの人類学的研究

香港人の著者が日系スーパリーの経営風土や日本人社員の職業生活を追ったエスノグラフィー。オックスフォード大学の博士論文を、自己批判的に改訂邦訳。瀬川昌久氏らとのオープンテキスト化によって、「間主観的現実の構築」を目指す。 0406/027-5/440 A5並製カバー／三六〇〇円

秦 兆雄著
中国湖北農村の家族・宗族・婚姻

出身地での長期調査により、解放・文革・改革開放という政治的文脈の中で農村社会がどのように変容してきたかを克明に記述した民族誌。華南偏重の欠を埋める「中原モデル」であり、今後の農村の変化する測にも貴重な基礎資料である。 0503/018-6/360 A5上製カバー／一〇〇〇〇円

劉 正愛著
民族生成の歴史人類学
満洲・旗人・満族

かつて清朝を創り、「満洲国」の中軸にも擬せられた満族は、現在中国の少数民族として認知されていく。しかし、その内実は漢族等も含む歴史的・政治的産物である。謎と矛盾に満ちたその生成過程を史料と实地調査から克明に迫る労作。 0603/019-4/368 A5上製カバー／五〇〇〇円

杉本星子著

「女神の村」の民族誌

現代インドの文化資本としての家族・カースト・宗教

インド農民が「生まれ」によって獲得し与えられるカーストと宗教。それを文化資本と読み解くことよって、人びとが日常的な関係を構築し実践しているかを分析、さらに地域社会や国家との重層的な関係をも開示した注目の書。 0903/022-4/296 A5上製カバー/三六〇〇円

銭 丹霞著

中国江南農村の神・鬼・祖先

浙江省尼寺の人類学的研究

民族的に空白だった華中の、尼寺という従来注目されなかった対象に密着。尼僧や信徒一般信者などの生活・活動から、人びとの「神・鬼・祖先」に関する観念を考察。ウルフらのモデルとは異なる観念を見出し提示した意欲的論考。 0701/1128-294 A5上製カバー/五〇〇〇円

片岡 樹著

タイ山地一神教徒の民族誌

キリスト教徒ラフの国家・民族・文化

清朝の雲南支配強化に伴う亡国、キリスト教への改宗、タイ国への移住といったラフの人々の歴史的経験を、彼らが「彼岸」の救済あるいは「此岸」の民族・文化・国家をどのようにみているかに接近。民族とは何か、に鋭く迫る。 0702/111-1/392 A5上製カバー/六〇〇〇円

山本春樹著

バタックの宗教

インドネシアにおけるキリスト教と土着宗教の相克

スマトラ北部のバタックの人々は、インドネシア有数のキリスト教圏を形成している。本書は解体されたかに見えた土着宗教に着目し、その再生と変貌を考察。近代化の中で二つの宗教がいかに受容されてきたかを再生と動的な研究である。 0702/1135-296 A5上製カバー/五〇〇〇円

長谷千代子著

文化の政治と生活の詩学

中国雲南省徳宏タイ族の日常の実践

水かけ祭りやホイ・バラ儀礼等に見られる国家と民族の問題を、言語的・非言語的な「実践」の視点で捉え、歴史や文化からの引き剥がしベクトルに対する人々々のしなやかな「立ち位置」を描く。「日本宗教学会賞・第五回国際宗教学研究所賞受賞」 0712/123-4/376 A5上製カバー/六〇〇〇円

須藤健一著

オセアニアの人類学

海外移住・民主化・伝統の政治

二〇世紀後半オセアニアに誕生した二つの島嶼国家は、グローバル化の影響を受けながらも独自の近代化を進めている。本書は、これら「脆弱国家」の現在を描くとともに、「国家のゆがみ」を正そうとする住民の活動についても考察。 0812/132-6/294 A5上製カバー/四〇〇〇円

河合利光著

生命観の社会人類学

フィジー人の身体・性差・ライフシステム

近代化により大きく変容したフィジー人社会を、グローバル化からサバイバルするために形成された、グローバル・ライフシステム (Global Life System) として捉えなおし、身体と環境の循環的・総合的認識、すなわち「生命観」を提唱する野心的論考。 0902/1227/334 A5上製カバー/五〇〇〇円

國弘曉子著

ヒンドゥー女神の帰依者ヒジュラ

宗教・ジェンダー境界域の人類学

男性としての生を放棄し、サリーを身に纏い、ヒンドゥー女神に帰依する現世放逐者ヒジュラ。本書は、「第三のジェンダー」とされた彼女らの表象を剥がし、むしろ、性とジェンダーの二元論を包括した存在であるとする斬新な論考。 0902/1333/280 A5上製カバー/四〇〇〇円

橘 健一著

〈他者／自己〉表象の民族誌

ネパール先住民チエパンのミクロ存在論

チエパンの語るチンラン (人喰い鬼、ドゥッキ (苦痛に悩む人) 等の世界を読み解き、自らの眼差しと、チエパンから著者への眼差しを交差させ、表象構築の双方向性を丹念に記述。伝統文化解釈への新たな地平を切り開いた注目の論考。 0902/1340/332 A5上製カバー/五〇〇〇円

樫水真佐夫著

ベトナム黒タイの祖先祭祀

家霊簿と系譜認識をめぐる民族誌

ベトナム西北地方の黒タイ社会を例として、ある社会を成形するのに文字文化がどのように関わってきたかを、民族誌データと現地文書を用いて分析。黒タイの系譜文書「家霊簿 (ソー・フィー・フオン)」を縦横に読み解いた初の専著。 0903/138-8/374 A5上製カバー/六〇〇〇円

西澤治彦著

中国食事文化の研究

食をめぐる家族と社会の歴史人類学

中国料理は、その多様さのみならず、医食同源やマナーなどに中国人の生活観・世界観を映し出す巨大な文化複合である。本書は、特に食事の仕方に焦点を当てながら、中国食文化の体系を歴史人類学的に精緻に分析した貴重な論考。 0912/023-7/784 A5上製カバー/八〇〇〇円

合田博子著

宮座と当屋の環境人類学

祭祀組織が担う公共性の論理

宮座とその運営システムである当屋制は、入会山野から川ため池等を経て海に注ぐ水利配分の広域的な地域社会関係を調整するシステムでもあった。一年にわたる兵庫県の調査資料を駆使しながら、宮座研究の現代的意義を明らかにした画期的労作。 1003/133-1/400 A5上製カバー/六〇〇〇円

長沼さやか著

広東の水上市民

珠江デルタ漢族のエスニシティとその変容

「蛋家」「水上人」とも呼ばれる船上生活者は、経済・政治的動因によって断続的な陸地定着を果たし、今日では漢族と「認定」されている。本書は今も彼らと「陸上漢族」との間に見られる様々な「境界」に着目、その差異のあり方を克明にたどる。 1003/1548-288 A5上製カバー/五〇〇〇円

嶋陸奥彦著

韓国社会の歴史人類学

父系親族社会とされる韓国。本書は、文獻調査に基づいた歴史・制度論的研究、実態調査に基づく現在の構造と、兩者が密に結びついた七〇年代以来、著者の積み重ねてきた相互横断的営為の成果。族譜・戸籍分析から韓国における親族の姿を描いた大著。 1003/1855-5/320 A5上製カバー/五〇〇〇円

本多 守著

ヴェトナムのコホー族

チル集団の社会と儀礼の交容

現代ビルマにおける

宗教的实践とジェンダー

石垣 直著

現代台湾を生きる原住民

プソンの土地をめぐる権利回復運動の人類学

山路勝彦著

台湾タイヤル族の一〇〇年

漂流する伝統 馳行する近代 脱植民地化への道のり

藤本透子著

よみがえる死者儀礼

現代カザフのイスラーム復興

黄 蘊著

東南アジアの華人教団と扶鸞信仰

徳教の展開とネットワーク化

奈倉京子著

帰国華僑

華南移民の帰還体験と文化的適応

深山直子著

現代マオリと「先住民の運動」

土地・海・都市そして環境

志賀市子著

〈神〉と〈鬼〉の問

中国東南部に於ける無縁死者の埋葬と祭祀

鈴木正崇著

ミャオ族の歴史と文化の動態

中国南部山地民の想像力の変容

菊田 悠著

ウズベキスタンの聖者崇敬

陶器の町とポスト・ソヴィエト時代のイスラーム

藤野陽平著

台湾における民衆キリスト教の人類学

社会的文脈と癒しの実践

川口幸大著

東南中国における伝統のポリテイクス

珠江デルタ村落社会の死者儀礼・神祇祭祀・宗族組織

河合洋尚著

景観人類学の課題

中国広州における都市環境の表象と再生

東南アジアの多くの少数民族は、植民地化、キリスト教改宗、国家への編入、少教の転換という、共通の歴史的変動を担っている。本書は、ヴェトナム、生業の社会変動を詳細に追いつき、個別の事例と少数民族の共通の歴史を描こうとする労作。 1101/169-2/328 A5上製カバー／七〇〇〇円

仏教と精霊信仰の二元論で語られてきたビルマの宗教世界。本書は村落で行われる宗教的实践を、人類学の立場から詳細に観察。それらをジェンダーの視点から見直すことによって、従来の図式化されてきた構図に新たな視座を提供する貴重な論考。 1102/163-0/318 A5上製カバー／五〇〇〇円

原住民の先住民権は、土地所有権において焦点化される。植民地時代、国民党支配の中で失われた先祖の地とそこにまつわるアイデンティティ「国家」による篡奪から、土地とルーツを回復すべく活動を続けた民族の歴史を、様々な視点から描く労作。 1102/161-6/406 A5上製カバー／五〇〇〇円

日本植民地時代の「文明化」、中華民国の「国民化」を経て、大きな変貌を余儀なくされた台湾原住民の近代化された教団の間に位置する結社の生成と展開を、民族アイデンティティ希求への軌道を確認。彼我を詳細に跡付ける一〇〇年の意味を問ひかける。 1103/162-3/492 A5上製カバー／五〇〇〇円

ソ連崩壊から二〇年が過ぎ、イスラームが新たな展開をみせる中央アジア。本書は、カザフスタンの草原と都市での最新の調査をふまえて、社会主義の近代化を経た宗教復興のあり方という現代的課題への人類学からの回答を試みている。 1106/165-4/392 A5上製カバー／六四〇〇円

東南アジア華人社会に多く見られる、扶鸞（ふらん）＝託宣を中心とした活動する宗教結社、廟と制度化された教団の間に位置する結社の生成と展開を、移民社会の特性、また構成員の生活戦略と対置することにより、両者の相互依存的関係を描く。 1112/164-7/362 A5上製カバー／四〇〇〇円

「私の故郷はどこ?」……帰国を余儀なくされた人びとを受け入れる施設、「華僑農場」で、様々に練り上げられる「中国人化」のプロセス。移民のアイデンティティや「母国」認識をたどる時、そこには、中国社会の特質も逆照射されていく。 1203/179-1/304 A5上製カバー／五〇〇〇円

アオテアロア（白く長い雲のたなびく地）に生きる、ニュージーランドの先住民マオリの現在。権利の回復や獲得、組織化された社会運動といった従来の観点を離れ、マオリが展開してきた七つの「先住民の運動」から、多様な先住民のありようを探る。 1203/181-4/320 A5上製カバー／六〇〇〇円

「聖人公媽」「百姓公」「義民爺」「万善公」など、華南沿海に広く見られる無縁死者への信仰を博覧。民俗の下層に沈潜し文字化されることも多しかったこれらの事象を分析。中国から広く東アジアに共通する靈魂観へとつながる視座を掘り起こす。 1203/189-0/326 A5上製カバー／五〇〇〇円

「ミャオ族（Miao）苗族」の現在。「文化とは何かを問うよりは、現実が起こっている意味作用、表象、言説、実践の実態から、文化の概念がどのように構築され、活用されるかを考えるべきなのであろう。その全てに関わるのが想像力である」（序文より）。 1204/177-7/580 A5上製カバー／八〇〇〇円

ソヴィエト近代化はなぜイスラーム社会の世俗化を達成できなかったのか。陶工の守護聖者崇敬や、死者儀礼が盛んに行われているリットン市等の事例から考察。大規模生産のベクトルと伝統的なものづくりネットワーク等、さまざまな要因に迫る。 1302/188-3/400 A5上製カバー／六〇〇〇円

教義・思想と対置する宗教実践の理解なくして、人びとの信仰の意味に迫ることは出来ない。東アジア各地と比較しながら、台湾のキリスト教布教の実践を真耶穌教会の事例から分析。民衆キリスト教に共通する「癒し」の位相を探る。 1302/186-9/400 A5上製カバー／五〇〇〇円

「伝統」を知識と実践の体系とすれば、国家は「正統な知識」を村落に敷衍し、村落はそれを「忠実に実践」することで、存立を明示してきた。本書は、歴史と現在におけるこれら双方の力学を動的に分析し、中国社会の「伝統」の意味に迫る。 1303/182-4/432 A5上製カバー／六〇〇〇円

発展変貌する華南最大の都市広州。下町における景観再生の動きを、最新の「景観人類学」の視点から分析。地域住民の記憶、価値観、社会関係から紡ぎ出された「場所」と、官や産学、メディアが創り出す「空間」のせめぎ合いを深く読み解く。 1303/178-4/392 A5上製カバー／五〇〇〇円

2

松川恭子著

「私たちのことは」の行方

インド・ゴア社会における多言語状況の文化人類学

岡部真由美著

「開発」を生きたる仏教僧

タイにおける開発の言説と実践の人類学

清水 純著

画像が語る 台湾原住民の歴史と文化

鳥居龍藏・浅井忠倫撮影写真の探究

浜田明範著

薬剤と健康保険の人類学

ガーナ南部における生物医療をめぐるつて

小西賢吾著

四川チベットの宗教と地域社会

宗教復興後を生きたるくボン教徒の人類学的研究

竹村嘉晃著

神霊を生きたること、その世界

インド・ネーララ社会における「不可触民」の芸能民族誌

轟 莉莉著

「知識分子」の思想的転換

建国初期の潘光旦、費孝通とその周囲

吉田ゆか子著

バリ島仮面舞踊劇の人類学

人とモノの織りなす芸能

木村 自著

雲南ムスリム・ディアスポラの民族誌

奈良雅史著

現代中国の〈イスラーム運動〉

生きたるくを生きたる回族の民族誌

中生勝美著

近代日本の人類学史

帝國と植民地の記憶

本田 洋著

韓国農村社会の歴史民族誌

産業化過程でのフィールドワーク再考

宮脇千絵著

装いの民族誌

中国雲南省モン人の「民族衣装」をめぐる実践

里見龍樹著

「海に住まうこと」の民族

ロンゴ語島マイタ島北部における社会的動態と自然環境

四百年余のポルトガル支配を経たゴア。話し言葉のコンカンニ語を公用語とした後も、英語や隣州のマラーティ語が書き言語として主流となった。宗教・階層・経済性など様々な力学で選択される言語状況から、人間集団と言語の関係を探る。1402/1913/320 A5上製カバー/五〇〇〇円

「開発僧」の概念から離れ、多様な開発言説の生産過程とその中に巻き込まれる僧侶を対置。現実的課題に取り組むことによって僧侶としてのアイデンティティを構築していく姿から、タイ社会の開発のあり方、上座部仏教の現代的様相を描き出す。1402/1920/384 A5上製カバー/五〇〇〇円

一七世紀に歴史に登場して以来四〇〇年。特に戦前・戦後の激変を受け、台湾の原住民は生活や文化を大きく変容、消滅してしまったものも多い。本書は失われたそれらを写真資料と詳細な裏づけ調査によって復元する試みである。1402/2026/400 A5上製カバー/六〇〇〇円

生物医療が先進国のように普及していかないと思われるアフリカにおいて、「意外にも」身近な存在となっている薬剤や健康保険。その実態を起点に、医療と人間・社会の関係を逆照射する野心的な論考。「日本アフリカ学会研究奨励賞受賞賞」1502/2088/214 A5上製カバー/三六〇〇円

社会主義のイデオロギー、市場経済や消費文化、科学技術が押し寄せ、急速に社会が変容する中、今も人々を惹きつけるチベットの民族宗教ボン教。破壊と復興を経た現在の宗教実践過程から、存続のメカニズムを描き出す。1502/2101/374 A5上製カバー/五〇〇〇円

ティヤム祭儀において、伝統的職業として神霊の役割を担う人びとのパフォーマンスに着目。その技や知識が社会、経済、宗教的文脈において流動的に変容しながら、受け継がれている実態を「ひと」と生活世界に寄りそって追求。1506/2095/404 A5上製カバー/五〇〇〇円

一九四九年の新中国の建国は、知識人に大きな変革。価値観の転換、立場や尊厳の喪失等をもたらした。本書は代表的な知識人の生き方を多くの資料により追究。歴史の奔流に直面した人間の真実に迫る貴重なドキュメントである。1512/2156/416 A5上製カバー/五〇〇〇円

ユネスコの無形文化遺産にも登録された仮面劇トベン。本書は、西洋近代的な「演者・観客」像から離れ、トベンが様々な起源を「叢」として存在していることを、動態的に示す。神いまず芸能の初源を「佛」とさせるユニークな民族誌。1602/2217/380 A5上製カバー/五〇〇〇円

雲南のムスリムたちは、一九世紀末には清朝の弾圧を逃れミャンマーに移住、二〇世紀中葉には国内戦などから、タイ・台湾へ再移住した。本書は、その足跡を歴史的にたどり、彼らのトランスナショナルな社会空間全体を見据えた「多現場民族誌」である。1602/2224/276 A5上製カバー/四〇〇〇円

イスラーム系一〇民族二三〇〇万人の半数近くを占める回族は、各地でモスクを中心とした小規模なコミュニティを形成し、漢族を主とする非ムスリムと隣り合っで暮らしてきた。雲南ムスリムの調査から、彼らの日常と信仰に迫る。1602/2204/338 A5上製カバー/五〇〇〇円

日本人類学は「大東亜共栄圏」の子供か。本書は、一三〇余年にわたる日本人類学の足跡を、文献とオーラル・ヒストリー、そして現地調査の積み重ねによって丹念に追ひ、その真実の姿に迫り、貴重なドキュメントである。1608/2279/624 A5上製カバー/五〇〇〇円

「流動性を基調とする社会システムは、決して産業化過程と都市生活に限定されるものではない——農村社会のどのような社会経済的基盤が流動性と持続性の均衡を可能にしたのか」三〇年にわたる農村調査から現代韓国社会の特質に迫る。1610/2334/488 A5上製カバー/五〇〇〇円

伝統的な衣装で知られる雲南。しかし、村々には商品化・工業製品化の波が押し寄せ、伝統的衣装の多くは既製服化・化粧化している。民族衣装の置かれた現実を見つめ、装うという人間の行為の普遍性とその現在に迫る。民族性への新たな視座。1702/2385/372 A5上製カバー/六〇〇〇円

サンゴの人工の島に暮らす人々。悠久の昔から続く南洋の長閑な風景と見まがう。だが、ひとびとの日常に深く寄り添うと、そこには絶えざる変化と切り結ぶ日々新たな生活があった。同時代を生きたる者同士とての共振から新たな民族誌を展覧。1702/2361/430 A5上製カバー/五〇〇〇円

胡 艶紅著

江南の水上居民

太湖漁民の信仰生活とその変容

藤川美代子著

水上に住まう

中国福建・連家船漁民の民族誌

梅村純美著

沈黙の医療

スリランカ伝承医療における言葉と診療

鈴木正宗著

東アジアの民族と文化の変貌

少数民族と漢族、中国と日本

吉田優貴著

いつも躍っている子供たち

聾・身体・ケニア

梅屋 潔著

福音を説くウイッチ

ウガンダ・パドラにおける「災因論」の民族誌

梶村美紀著

「ビルマ系日本人」誕生とそのエスニシティ

多民族な社会と新たな連帯

河野正治著

権威と礼節

現代ミクロネシアにおける位階称号と身分階層秩序の民族誌

中屋敷千尋著

つながりを生きたる

北インド・チベット系社会における家族・親族・隣人の民族誌

竹村和朗著

現代エジプトの沙漠開発

土地の所有と利用をめぐる民族誌

尾崎孝宏著

現代モンゴルの牧畜戦略

体制変動と自然災害の比較民族誌

飛内悠子著

未来に帰る

内戦後の「スーダン」を生きたるクク人の移住と故郷

岡本圭史著

せめぎ合う霊力

ケニア、ドウルマ社会におけるキリスト教と妖術の民族誌

アルベルトウス・トーマス モリ著

華人キリスト者の越境と宗教実践

中華性とミッションの人類学的研究

古くから船上で暮らしてきた漁民たち。建国後の「漁業社会主義改造」により陸上定住者となった彼らの暮らしの変化とは。国民国家への統合プロセスを迫りながら、社会や生活に焦点を当て、変化と持続の両面を分析。歴史民俗学の貴重な成果。 1702/2392/368 A5上製カバー/五〇〇〇円

水上／陸上に住まうという行為を、単に住む場所に関連させるのではなく、また被差別の問題に置き換えるのではなく、日常の実践の総体と捉える。近代中国の激動の時代を乗り越えてきた、船に住まう人々の生きざまを描く、気鋭の民族誌。 1702/2378/492 A5上製カバー/六〇〇〇円

患者のナーデイ(脈)を読み取る指先。診断から薬する処方までの問診や応答なき治療。言語や発話を忌避し、分析を超越した医療体系を、精徳としての診療、供物としての代価の応答でもあった。伝統医療の根底に潜む生命観・世界観に迫る。 1703/2408/320 A5上製カバー/五〇〇〇円

中国南部の「少数民族」(トン族・ヤオ族・スイ族・トゥウチャ族)と漢族の立ち位置を「文化の相互変容」の視点からさまざまな角度から分析。さらに、中国と日本の文化の変貌まで視野に入れた、著者による集大成的な論考。 1708/2293/568 A5上製カバー/八〇〇〇円

世界はいつも「躍」っている。ひとはいかにして他者と生きているのだろうか。聾なるがゆえの継時的でない「交感」の様を見つめ、身体の共振という会話(≡手話・ダンス)から、言語・社会の始原を省察。「非文字社会」への人類学の新たな冒険。 1802/2439/356 A5上製カバー/五〇〇〇円

政治家やキリスト教者もが呪術・妖術・呪詛を語る世界。近代というペールの破れ目からのぞく様々な事象とその説明を、あえて土着の論理やウイッチ(妖術師)の言説に寄り添って記述。アフリカに見る「魔術的リアリズム」の世界。 1802/2446/760 A5上製カバー/六〇〇〇円

母国ミャンマーでは多数派民族と少数民族の区分は明確だが、長期滞在の中で連帯が生まれ、新たなエスニシティが形成されている。定住する移民の民族性とは何か。来たるべき「移民社会・日本」への新たな視座を与える論考。 1802/2453/236 A5上製カバー/四〇〇〇円

伝統的権威と近代国家が併存するポーンベイ島。その均衡は、成人の大半が持つ位階称号の権威とそれに見合う礼節によって保たれた。礼節の技法の持つ新たな関係性を生み出す力を軸に、変容する島の社会と動態的な規範概念を描き出す。 1902/2538/390 A5上製カバー/五〇〇〇円

ヒマラヤ中腹スピティ渓谷に暮らす人々のゆるやかな親族範疇。ニリン。系譜や婚姻によるだけでなく、身体を寄せ合う暮らしの中でつくりだされる「つながり」に着目。生活の機微やリアリティの生成過程に身を置いて考究。注目の実験的民族誌。 1902/2521/332 A5上製カバー/四〇〇〇円

開発の中で静かに進行する国家機構の拡大と人々による日常的抵抗の過程に注目し、人間を取り巻く法や制度、慣習、社会組織の全体像から、否応なしに「国家ある社会」を生きなければならぬ現代エジプト社会の姿を描き出す。 1903/2576/382 A5上製カバー/五〇〇〇円

モンゴル国と内モンゴル自治区における近二〇年の牧畜産業の動態を比較検討。異なる国家、社会、政策のもと、多様化と変容の中から共通する近郊と遠隔地の二極化の様態を析出。精緻な調査が導き出した、草原の構造変化とは。 1902/2544/740 A5上製カバー/五〇〇〇円

数百万人の難民を生んだ内戦の終結は、人生・場所・生活それぞれの組み合わせにより、二〇年後の故郷への帰還、住み慣れた異郷での定住などさまざまな位相を生んだ。苦難の「ホモ・モビリティ」(移動するヒト)への人類学アプローチ。 1902/2569/390 A5上製カバー/五〇〇〇円

「回心」や「伝統宗教から世界宗教へ」という構図ではない改宗の理由とは。妖術・悪依霊・悪魔崇拝が今も生きる社会で、人々の語りや耳を傾けると、彼らにとってのキリスト教の実像が見えてくる。妖術研究と改宗研究の交差する地平を示す論考。 2002/1098/248 A5上製カバー/五〇〇〇円

「世界華人福音運動」など様々な実践の文脈から、中華思想や漢族血統主義といった本質主義的思考とは全く異なる新たな華人像を「発見」。越境の中での中華性という華人研究の「民」から脱し、新たな視点を開拓する注目の論考。 2003/1104/224 A5上製カバー/四〇〇〇円

玉井 隆著

治療を渡り歩く人びと

ナチスエリアの本スラムにおける治療ネットワークの民族誌

松岡佐知著

南インドに生きる医療

制度と多元性のあいだ

河合洋尚著

〈客家空間〉の生産

梅原における「原郷」創出の民族誌

林 史樹著

1990年代韓国のサーカス日誌

木戸口(キド)からみた興行記録

楊 海英著

モンゴルの親族組織と政治祭祀

オボク・ヤス(骨)構造

岩原紘伊著

村落エコツアーリズムをつくる人びと

バリの観光開発と生活をめぐる民族誌

中尾世治著

西アフリカ内陸の近代

国家をもたない社会と国家の歴史人類学

杉本良男著

仏教モダニズムの遺産

アナガリーカ・タルマパリーラとナシヨナリズム

平寛多朗著

エジプトの「国語教育」

バリの観光開発と生活をめぐる民族誌

瀬川昌久著

連統性への希求

族譜を通じてみた「家族」の歴史人類学

深川宏樹著

社会的身体の民族誌

ニューギニア高地における人格論と社会性の人類学

清水拓野著

中国伝統芸能の俳優教育

陝西省演劇学校のエスノグラフィ

瀬川昌久著

客家

エスニシティーの形成とその変遷

生物医療によって制圧されたかに見えるマラリア。だが、エグエンの人びとは、より劣悪な故郷ベナンでの治療を受ける。科学的合理性とフェイールドから見直す現代医療の功罪。 2002/157.9/300 A5上製カバー/五〇〇〇円

アーユルヴェエダから現代医学まで多様な医療が混在するインド。人々は制度の範疇を超えて自在にそれらを選択している。伝統的治療師に弟子入りし、非制度的医療の果たしている役割を見つめた著者が、「社会システムとしての医療」の展望に迫る。 2002/156.6/264 A5上製カバー/四〇〇〇円

客家は、やがて「空間」となり「文化」を形成していく。観念としての民族は、やがて「空間」創出のメカニズムを解明、注目の空間論的アプローチとその展開。 2002/102.9/366 A5上製カバー/五〇〇〇円

移動集団をフィールドワークしようと、慶州、木浦、光州、江陵……の巡業羣らし。肉体労働と人間関係を翻弄されながら必死で書けた日誌が、今は昔のローテク時代の韓国、周縁に生きる人々々の体が匂うごとくよみがえってくる。 2003/136.4/372 A5上製カバー/五〇〇〇円

二代も先祖を遡ることができたモンゴル。だが、清朝支配や文化大革命によりオボク(親族組織)は半壊、ヤスも忘却されたところがある。本書はヤスのもつ社会的機能と象徴的意義に注目、モンゴル人の政治原理と社会構造を明らかにした大著。 2004/169.9/326 A5上製カバー/三六〇〇円

インドネシア随一の観光地バリは、観光開発の負の影響が最も大きい地域でもある。コミュニティベースト・ツーリズムⅡ地域社会の文脈に合わせた観光という理念と、ローカルNGOたちの現実的行動をつぶさに記述。二一世紀型の観光に迫る。 2007/206.4/328 A5上製カバー/五〇〇〇円

村々の国家に抗するシステムとフランス植民地統治によるその解体。植民地通貨と政党政治による混乱、イスラームの改革主義運動の苦闘……。本書は断片的で偏在する史料から、アフリカの近代論と新たな歴史人類学を構想した気鋭の論考である。 2007/168.5/392 A5上製カバー/七〇〇〇円

タミル分離独立をめぐる内戦、ムスリムとの対立、同時多発テロは、仏教聖地スリランカを根拠から揺るがせた。植民地支配下で仏教を創始したダルマパールの思想を問い直し、そこに潜む暴力性にについて人類学的系譜学に考察した労作。 2002/275.0/368 A5上製カバー/五〇〇〇円

領土、アラブ人、イスラーム。これら三つのアイデンティティー濃度を持ち、交錯した帰属意識の中に生きるエジプト人。教科書にみる言説や歴史から、フスハー(正則アビア語)を国語とする意味を問い、彼らのナシヨナリズムとは何かを再考する。 2002/286.7/238 A5上製カバー/四四〇〇円

香港新界の一つの族譜資料を、史料批判的に吟味し、人口動態を統計的に数値化。その「点と線」を人類学的に分析。一四世代にわたる家族のかたちを詳細に図表化し、系譜を書き綴ることⅡ男系出自の永続を求めた人々の規範意識の根源に迫る。 2002/230.9/576 A5上製カバー/六〇〇〇円

幾重にも張り巡らされた贈与交換の網の目。紛争や軋轢から生じる怒りや悲しみの感情、激情と希望、怒嗟と賭けられた生。その人々のむきしめきの総体を、贈与論、人格論、社会的理論から描き出し、人間の変容可能性を展望する新たな民族誌。 2003/290.3/446 A5上製カバー/五〇〇〇円

京劇の形成にも関わった地方劇「秦腔」。その教授・学習の現場から芸能と教育の関係を捉え直す試み。文学・音楽・舞踊・雑技・美術などの表現手段から融合した総合芸術の成り立ちを、俳優すなわち人間の教育という側面から分析した画期的な論考。 2003/294.1/346 A5上製カバー/五〇〇〇円

「エスニシティー現象」という普遍的課題への細密な考究。清末以後、客家知識人による自文化への言及は、民衆や海外との呼応共振によって、やがて鮮明な自画像・他者像を生み出した。そしてそれは二一世紀の今日、新たな展開を見せている。 2002/313.9/280 A5上製カバー/三六〇〇円

竹村卓二編

儀礼・民族・境界
華南諸民族「漢化」の諸相

品薄

品切：「呪術化するモダニティ」
品薄：「儀礼・民族・境界」「血縁」の再構築」『東アジアからの人類学』

ヤオ族・ミャオ族等、中国南部に住む少数民族は、圧倒的な漢族の中で、自らのアイデンティティを保ちながら共生している。その複雑でダイナミックな「民族境界」の維持・変動を、各民族の儀礼に焦点をあて検証。注目共同研究。9403/316/278
A5上製カバー／五〇〇〇円

瀬川昌久編

香港社会の人類学
総括と展望

返還を機に、香港社会とその人類学研究の双方を再検討し、歴史の変動のさなかにある「未来都市・香港」として住む人々の新たな生き方を読み解く。練達のフィールドワーカー達によるミクロコスモスの饗宴。9705/332/296
A5上製カバー／四五〇〇円

末成道男編

中原と周辺
人類学的フィールドからの視点

中華文明の垂直的中心性に対して、漢族社会の多様性と変容を、ベトナム・雲南・香港・沖縄・台湾など「辺境」から問い直し、さらに周辺文化における中華文明とのインタラクティブな交流と複合過程を実証的に解明しようとする試み。9902/383/424
A5上製カバー／七〇〇〇円

移島敬志編

土地所有の政治史
人類学的視点

従来の民族誌的分析や、アジア・太平洋的な比較研究と、先住民の「権利」回復や経済開発という現代的文脈を超え、人類学的地平の限界を探る野心的論議。(民博「アジア・太平洋における民族文化の比較研究」第8回シンポジウム)の成果。9902/375/490
A5上製カバー／三〇〇〇円

吉原和男／鈴木正崇・末成道男編

〈血縁〉の再構築
〔軽装再版〕
東アジアにおける父系出自と同姓結合

品薄

華人社会に顕著な同姓団体に着目し、伝統的な父系出自との関連を考察。血縁イデオロギーとその再構築の原理・諸相を、中国・台湾・韓国・ベトナムの事例から、歴史・民族・社会の視点で探る。(慶應義塾大学地域研究センター叢書) 0701/028/2/360
A5並製カバー／三〇〇〇円

吉原和男／クネヒト・ベトロ編

アジア移民のエスニシティと宗教

現代アジア最大の緊張要因■宗教と民族の問題は、移民社会において鮮明に立ち現れる。在日ベトナム・ビルマ人やタイのムスリム・漢人をはじめ多様な現場から、その構造と諸相を分析した期待の論集。〔南山大学人類学研究所叢書〕 0103/035-6/390
A5上製カバー／五〇〇〇円

塚田誠之編

民族の移動と文化の動態
中国周縁地域の歴史と現在

内蒙古・雲南・ベトナムなど広範な周縁地域の事例から、民族の移動とそれに伴う様々な文化の「変容」を考究した論議。歴史・民族両面から移住の要因、非漢族の移動、民族間接触とその諸相、国家政策など、多岐にわたる主題を提示。0303/036/4/728
A5・FODD／二〇〇〇円

塚田誠之・長谷川清編

中国の民族表象
南部諸地域の人類学・歴史学的研究

中国南部・東南アジア大陸部の諸民族が、いかなる表象を紡ぎ出し、自己と他者の境界を創り出し、エスニシティとアイデンティティの多様性を生み出したか、をめぐる実証的論議から、「民族」を語る今日の基盤に迫る。民博共同研究の成果。0503/039/9/432
A5・FODD／六〇〇〇円

伊藤亜人先生退職記念論文編集委員会編

東アジアからの人類学
国家・開発・市民

東アジアを見つめて続けてきた日本人類学。その眼差しは近年また大きな転換点を迎えるようとしている。本書は、長年柔軟な視点で人類学の枠組みを再構築してきた伊藤教授の門下による、新たなパラダイムへの野心的提言である。0603/042/9/308
B5変型並製カバー／三三〇〇円

瀬川昌久・西澤治彦編訳

中国文化人類学リーディングス

フアース、ラドクリフ・ブラウン、フリードマン、スキナー、ワトソン、林耀華、陳其南、費孝通……。人類学史を刻んできた主要論考を、民族・社会・宗教・宗教等の分野ごとに抽出・構成。編者らによる翻訳に解題を付した決定版。0612/041-0/356
A5並製カバー／三〇〇〇円

阿部年晴・小田 亮・近藤英俊編

呪術化するモダニティ
現代アフリカの宗教的実践から

品切

近代化とともに衰退したはずの呪術・妖術が今日も日常的に実践されているアフリカ。国家や資本主義にも組み込まれたこれら宗教的実践に新たな考究の眼を注ぐ時、オカルトに浸る日本をも照射する新たな「近代」像が結ばれる。0705/119/7/408
A5上製カバー／六〇〇〇円

塚田誠之編

民族表象のポリテイクス
中国南部における人類学・歴史学的研究

文字、人物、施設、シンボルなど多様な表象形態が、民族文化を生産し、流通・消費させる場所となっていることを、各地の事例から明示。その政治性と表象主体のせめぎあいの中に、「民族文化」とその変容のダイナミズムを読み解く。0803/124/1/432
A5上製カバー／五〇〇〇円

費孝通編著／西澤・塚田・曾・菊池・吉開編訳

中華民族の多元一体構造

人類学・考古・歴史学の立場から諸民族の一体論を説き、学界のみならず、政府の民族政策にも大きな影響を与えてきた重要文献の邦訳。複雑な民族構成を持つ大国の動向を知る上で必須の文献。各分野気鋭の研究者による翻訳に解題を付す。0806/118-0/384
A5並製カバー／三〇〇〇円

宮沢千尋編
社会変動と宗教の〈再選択〉
ポスト・コロニアル期の人類学研究

韓 敏編

革命の実践と表象

現代中国への人類学的アプローチ

長津一史・加藤 剛編

開発の社会史

東南アジアにみるジェンダー・マイノリティ・境界

上田崇仁・崔 錫榮・上水流久彦・中村八重編

交渉する東アジア

近代から現代まで：崔吉城先生古稀記念論文集

鈴木正宗編

東アジアにおける宗教文化の再構築

等原政治編

馬淵東一と台湾原住民族研究

瀬川昌久・飯島典子編

客家の創生と再創生

歴史と空間からの総合的再検討

須藤健一編

グローカリゼーションと

オセアニアの人類学

小池 誠・信田敏宏編

生をつなぐ家

親族研究の新たな地平

石原美奈子編

せめぎあう宗教と国家

エチオピア 神々の相克と共生

杉本良男編

キリスト教文明とナシヨナリズム

人類学的比較研究

清水 純・潘 宏立・庄 国土編

現代アジアにおける

華僑・華人ネットワークの新展開

谷垣真理子・塩出浩和・宍 應黄編

包容する華南と

華人ネットワークの現在

塚田誠之・武内房司編

中国の民族文化資源

南部地域の分析から

戦後の開発の時代と植民地時代の相似性を注視する時、その眼差しはポスト・コロニアルと呼ばれる二一世紀の世界に至る。イデオロギーに替えて宗教を「再選択」する多様な事例を通し、新たな民衆の生き方に向ける。「南山大学人類学研究所叢書」 0903/1296/304 A5上製カバー/四二〇〇円

中国の革命はその後イデオロギー化され、日常の実践を通してもう一つの伝統を作りあげた。二一世紀の現在、観光・芸術・民間信仰などの分野で再構築され、流通する「革命」の言説、諸制度・実践と表象を追う注目の論集。0903/1286/544 A5上製カバー/六〇〇〇円

開発はいかに生活の諸領域に介入してきたか。インドネシア・マレーシア・フィリピンの近五〇年の開発を、周縁世界における集団・空間・性差という位相から見つめるとき、浮かび上がる姿とは。開発と社会との相互作用のダイナミズムを掘り上げる。1003/1494 A5上製カバー/六〇〇〇円

柔軟で細心の視点から、東アジア現代社会研究に新たな地平を拓き続けてきたその足跡を追い「接触・変容する近代日本と朝鮮」「交渉する近代と現代」の読み直される現代韓国」の各主題に教える論文集。知友のエッセイを付す。1006/1319/280 A5上製カバー/四〇〇〇円

多様で重層的な宗教文化の伝統をもつ東アジア。急速な近代化・情報化・大衆化にさらされる中、その変容も様々である。各地における宗教文化「再構築」の現場から、変化の語相と基底部を探る貴重な論集。(慶應義塾大学東アジア研究所叢書) 1012/1487/488 A5上製カバー/四〇〇〇円

人類学の巨人・馬淵東一の生誕百周年を記念し、二〇〇九年に台湾で開かれたフォーラムの成果。その幅広い業種の中から台湾原住民族研究に絞り、今日の視点から再検討・再評価を加えた論文集。日本人類学が築いてきた骨太の学統に迫る。1012/1449/304 A5上製カバー/四〇〇〇円

羅香林の研究を起点とする「客家固有の文化伝統」言説は、世上を賑わし続け、今や客家自身の自己認識をも変貌させ、言説の再生産すら見られるこうしたパラダイムの転換を目指して、研究の意味や対象との関係を問い直し、次世代の視座を探る。1203/1807/244 A5上製カバー/五〇〇〇円

オセアニアは海洋に分断された典型的ローカルながら、それら社会間を越える広範な交流を行ってきた。グローバリ化の激流に掉さし、開発・伝統・移民・観光などの現場において行われた多様な受容の有り様を通し、地域や人びとの本質に迫る。1208/1470/342 A5上製カバー/五〇〇〇円

家族・家庭が急速に溶解している現代社会。本書は親族研究の伝統を持つ人類学において、現在の「家」に対してどのような考察が可能か、を改めて問い直す試み。社会学・民俗学の知見も交え、個別の事例から「家」の変遷を通文的に跡づける。1302/1517/342 A5上製カバー/五〇〇〇円

ユダヤ教・キリスト教・イスラームが航海時代以前から受け入れられ、独自に発展を遂げていた国エチオピア。呪術や精霊崇拜、プロテスタント系ミッションなども混じり、宗教モザイクを呈する古くて新しい国家の多層な民族・宗教の関係を解く。1402/1944/432 A5上製カバー/五〇〇〇円

キリスト教を人類史上最強の文明化装置と捉え、非ヨーロッパ世界における様々な事例をもとに「キリスト教文明」による「近代化」の歴史過程とその帰結について検討、その功罪を人類学的視点から見直す。国立民族学博物館論集第二巻。1403/1939/388 A5上製カバー/五〇〇〇円

激変するアジアの地政学的構図の中で、華僑・華人の立場も大きく変貌している。本書は、各地で築かれてきた彼らのアンジェーションの新設、再編、グローバリ化といった新たな展開を分析。それら新潮流を促したネットワークの現在に迫る。1402/1951/576 A5上製カバー/七〇〇〇円

ダイナミックな発展を遂げる華南。そこをハブとした繋がりは、かつての華僑イメージを大きく覆す。北東アジアなど空間的広がり多様性の中で、華人ネットワークの現在進行形を描きつつ、琉球華僑など歴史の淵源の多重要性をも扱う。注目の論集。1402/1937/496 A5上製カバー/六〇〇〇円

文化資源という概念で「もの」「こと」を見直す時、多様な存在形態とそれらを生み出す諸主体との関係性が、新たな相貌をもつて立ち現れる。民族の記憶、人々の経験が「文化」に育ち「資源」化されるまでを同時代に追う、新たな中国現代文化論。1403/2019/436 A5上製カバー/五〇〇〇円

杉島敬志編

複ゲーム状況の人類学

東南アジアにおける構想と実践

田中雅一編

軍隊の文化人類学

韓 敏編

中国社会における文化変容の諸相

グローバル化の視点から

野村伸一編著

東アジア海域文化の生成と展開

〈東方地中海〉としての理解

鈴木正宗編

森羅万象のささやき

民俗宗教研究の諸相

塚田誠之編

民族文化資源とポリティクス

中国南部地域の分析から

津田浩司・櫻田涼子・伏木香織編

「華人」という描線

行為実践の場からの人類学的アプローチ

無数の暗黙のルールが交錯する世界。熟知もせず抵触もせず生きる日常。状況しえない「規則―信念」が並存し、同時に作用する状態。「複ゲーム直し」に生きる人間の有り様を、多彩な事例の中で考察。人類学的新たな分析軸を探る野心的論集。1410.2040.382 A5上製カバー/四〇〇〇円

私たちはいつたいどのくらい軍隊について知っているのだろうか。社会の産物であり、社会にも影響を与える特殊な集団・軍隊。だが、兵士たちもひとりの生活者として生きている。戦略や組織論から離れ「平時の軍隊」を描く注目の論集。1502.2071.604 A5上製カバー/五〇〇〇円

現代中国を作り上げていく巨大な原動力「グローバル化」。人々はその大きな波を受け入れつつ、自らの集団、地域、エスニシティ、ナショナルイデオロギイや伝統を意識し、ローカルの現場を再構築している中国の今を読み解く貴重な論集。1503.2132.384 A5上製カバー/五〇〇〇円

国境や二国間関係の制約から離れた視点で見るとき、それは広域をダイナミックにつなぐ自在な海路であり、それぞれの地域文化を豊かにはぐくむ母なる海であった。歴史と文化を創造的に再構築するための、基層文化再検討の試み。1503.2149.754 A5上製カバー/六〇〇〇円

「鈴木正宗退職記念論集」として企画された本書は、文化人類学・宗教学・民俗学の多様な視点から、地域社会と人々が織りなす「いま」に迫る渾身の四二論考を取りめる。脈々と受け継がれ、かつ進化を続ける学統の現在および展望を示す。1503.2125.1000 A5上製カバー/二〇〇〇円

資源化された民族の記憶や人々の経験は、「モノ」となり、政府、知識人、企業、一般民といった様々な主体によって操作される。本書は、発展変化の著しい中国南部の多様な事例から、諸主体間のせめぎあいや妥協を分析。中国現代社会論の再構築。1603.2286.504 A5上製カバー/五〇〇〇円

「華人学」2.0を指しつゝ。循環論に陥りがちな従来言説を離れ、「華人」と語られ、「華人」が行うとされる状況に寄り添い、無数の差異から立ち現れるものを凝視。本質主義をめぐる議論の呪縛を解き放ち、新たな地平を指す貴重な試み。1603.2248.392 A5上製カバー/五〇〇〇円

白川千尋・石森大知・久保忠行編

多配列思考の人類学

差異と類似を読み解く

佐々木史郎・渡邊日日編

ポスト社会主義以後の

スラヴ・ユーラシア世界 比較民族誌的研究

西澤治彦・河合洋尚編

フィールドワーク

中国という現場、人類学という実践

上水流久彦・村上和弘・西村一之編

境域の人類学

八重山・対馬にみる「越境」

関根康正編

ストリート人類学

方法と理論の実践的展開

志賀市子編

潮州人 華人移民のエスニシティと

文化をめぐる歴史人類学

山口 徹編

アイランドスケープ・ヒストリーズ

鳥景観が架橋する歴史生態学と歴史人類学

調査が可能となつて三〇年。変貌し続ける中国に向き合い、様々な主題を掲げ、新たな方法を模索し続けたフィールドワーカー達。本書は、老壮青それぞれの立場で描く実践の記録であり、新たな人類学への大いなる挑戦である。1706.2422.522 A5上製カバー/三六〇〇円

境域とは周辺でも境界でもない、境を接する双方の関係性が多層に交錯する場である。国家では周辺に過ぎない地域が、トランショナルな場として浮揚する一方で、国家間緊張が顕在化する場もある。新たな視角で「境界」を読み直す野心的論集。1707.1968.476 A5並製カバー/五〇〇〇円

ネオリベリズムという名の妖怪が人類を路上に追いやっている。世界の街角からその実態を拾い上げ、極北においてなお発現する人間の創発力をも捉えようとする、人類学的研究の社会的コミットメントの成果。1802.2460.788 A5上製カバー/六〇〇〇円

広東省の潮州・汕頭地域にルーツを持つ彼らは、華僑・華人を代表する言語集団の一つとして、世界に活動の場を広げている。本書は、移民する彼らの動態と文化の変容を各地の事例から報告し、「潮州人とはだれか」に迫る、初の論著である。1802.2477.424 A5上製カバー/四五〇〇円

自然と人間営みが凝集された空間「島。大地とは異なるその独特な景観を、文化人類学（ヒト・地球科学（コト・考古学）との立場から分析。生態学や人類学の眼差しが島の悠久の歴史を探る。超学際的な重層的対話の試み。1903.2583.368 A5上製カバー/五〇〇〇円

杉本良男・松尾瑞穂編
聖地のポリテイクス
ユーラシア地域大国の比較から

韓 敏編

家族・民族・国家
東アジアの人類学的アプローチ

長谷川清・河合洋尚編

資源化される「歴史」

中国南部諸民族の分析から

土佐桂子・田村克己編

転換期のミャンマーを生きる

「統制」と公共性の人類学

江口一久編／八木祐子・手塚恵子編集

儀礼と口頭伝承

聖地はいつも「満員御礼」！ インド、中国、ロシアそれぞれの聖地について、その物語性と観光化、宗教や国家イデオロギーの介入、「再」聖地化といたって現代の諸相に切り込み、人々にとって聖地とは何かを考究する。民博共同研究の成果。1903/262/0/352 A5上製カバー／五〇〇〇円

家族の言説とその実態、「民族」構築の理論的系譜、国家・社会関係のパラダイムという三方向からその動態を見据え、新たな分析枠組みを提示。日・中・韓・米、台湾、香港の人類学者による民博共同研究の成果。中国研究に新たな視座を提示。1903/263/7/420 A5上製カバー／五〇〇〇円

ヒトや集団の文化実践によって紡ぎ出された「歴史」は、市場経済や政治権力によって加工され、より大きな文脈として再配置されていく。現場のからさまざまな水流を汲み取り、全体としての動態を見極めようとする試み。民博共同研究の成果。1903/264/4/20 A5上製カバー／五〇〇〇円

激変するかに見えた国の底流にあるもの。民政移管として「スティー政権」へ。人々の上にはも「統制」のくびきがある一方、傍らにはさまざまな「公共性」の風吹がほの見える。モノ・情報・コミュニティから見た可能性とは。民博共同研究の成果。2003/267/5/334 A5上製カバー／五〇〇〇円

モンゴル、インド、スリランカ、中国、韓国、日本など、各地の儀礼と口頭伝承の事例を読み解き、変動する社会における文化の創造とパフォーミングスを考察。(民博「アジア・太平洋地域における民族文化の比較研究」第9回シンポジウムの成果) 2103/033/6/400 A5上製カバー／五〇〇〇円

●歴史・考古・言語

品切：「葬儀の植民地社会史」

菊池秀明著

広西移民社会と太平天国

〈本文編〉〈史料編〉

新史料の精緻な分析から、移民・少数民族接触地域における社会的流動性と階層上昇エネルギーを跡づけ、運動参加に至るメカニズムを解明。史料編には、四十余の史料に解題・註・系図等を付す。0102/057/098 + 0102/065/056 A5上製カバー／八〇〇〇円・一八〇〇〇円

蔡 驥著

汀江流域の地域文化と客家

漢族の多様性と一体性に関する一考察

客家の祖地の一つとされる汀江流域。その言語、地理、産業の特徴を踏まえて地域文化の生成過程をたどり、「客家文化」との異同を検証。さらに先住民文化の統合と漢化の動因を探りながら、客家形成の真相に迫る。野心的論考。0510/014/3/330 A5上製カバー／五〇〇〇円

飯島典子著

近代客家社会の形成

「他称」と「自称」のはざままで

宣教師、中国官憲、そして自らを客家と称する人々が遺した史料を元に、それぞれがいつ、どのように「客家」という存在を認識したかについて検討。社会・経済の視点から、客家集団を客観的な存在として初めて捉えようとした注目の論考。0702/114/2/284 A5上製カバー／五〇〇〇円

胎中千鶴著

葬儀の植民地社会史

帝國日本と台湾の〈近代〉

品切

葬儀は、その社会の価値体系が集約的に示され、最も重んじられる儀礼である。本書は、植民地支配の中で葬儀がどのように日本化されていったのかをたどり、受容・抵抗・やり過(し)を通し、支配・被支配双方の「近代」を見つめ直す。0802/126/5/280 A5上製カバー／四〇〇〇円

倉橋圭子著

中国伝統社会のエリートたち

文化的再生産の視点から

科挙によって穿たれたエリート階層への道筋。しかしその道は今日の学歴社会と同様、科挙合格者を出す階層のエリート再生産システムによって世代継承されるものでもあった。族譜や文献の詳細な分析で示す、ユニークな歴史解釈。1102/171/5/232 A5上製カバー／三六〇〇円

塩谷哲史著

中央アジア灌漑史序説

ラウザン運河とヒヴァ・ハン国の興亡

中央アジアはかつてユーラシア史の中軸にあったが、一六世紀以降の火器普及や海路開発に伴い次第に周縁化する。本書は、そうした時期における灌漑とそれを支える王権の関わりを考察。自然環境と地域社会の実像に基づいた新たな歴史像を描く。1402/197/5/288 A5上製カバー／五〇〇〇円

ボルジギン・フスレ(呼斯勒) 著

中国共産党・国民党の

対内モンゴル政策(一九四五〜四九年)

石澤良昭著

〈新〉古代カンボジア史研究

俵 寛司著

脱植民地主義のベトナム考古学

「ベトナムモデル」「中国モデル」を超えて

武内房司・宮沢千尋編

西川寛生「サイゴン日記」

水口拓寿著

儒学から見た風水

宋から清に至る言説史

陳 雲蓮著

近代上海の都市形成史

国際競争下の租界開発

代田智明監修／谷垣真理子・伊藤徳也・岩月純一編

戦後日本の中国研究与中国認識

東大駒場と内外の視点

吉川次郎著

近代中国南方のメディア言説

辛亥革命期の雲南・広西とベトナム／日本

内モンゴルの独立・自治志向と中国の統合圧力を軸として、革命と民族主義運動の軌跡を考察し、一九二〇年代から一九四九年までの中国共産党・国民党による対内モンゴル政策を分析。新資料を駆使し、内モンゴルの独立が阻まれた力学を詳解。 1102/172-356 A5上製カバー／五〇〇〇円

カンボジア史・アンコール王朝史に画期をもたらした名著の増補改訂版。刊行後三〇年の研究成果を新たに盛り込み、内容を一新。さらに増補部分では、東南アジア史・世界史の文脈にカンボジア史を組み込むべく、大きな視点を提示。 1309/1708/768 A5上製西入り／一五〇〇〇円

ベトナムの考古学をめぐる、フランス、中国、ベトナムが行ってきた「解釈」を、仏領インドシナ時代に集められたベトナム考古資料の復元と分析により「解体」。古代とは誰のものかを問い直す、大胆にして緻密なメタ・考古学の試み。 1410/2057/444 A5上製カバー／六〇〇〇円

松下広光が創立した「大南公司」社員西川捨三郎の駐在日記の全文。プー・ティン・ジエム政権確立期に、政権と深く関わった松下らの動きを克明に記録。国づくりや日越問題、民衆の暮らしを伝える第一級の史料。学習院大学東洋文化研究叢書) 1502/2118/372 A5上製カバー／四〇〇〇円

儒教知識人は風水という文化事象にどのように対処しようとしたか。一部分否定⇒部分肯定の範囲内で表明された言説は、「第二の風水思想史」と呼べるほどの流れを形成していた。儒教思想史研究・儒教知識人論の領域に新たな展開を試みる好著。 1512/2170/406 A5上製カバー／五〇〇〇円

世界有数の港湾都市の誕生を描く。東アジア開港場の一つとして出発した上海は、列強の租界を包含しながら都市インフラ、そして港湾を建設していく。政治経済のうねりと生活空間形成の変転を見つめた建築史の新たな挑戦。 1802/2684/356 + カラー口絵2枚 A5上製カバー／五〇〇〇円

「新中国」の誕生から「超大国」の現在まで。シノロジーほどの分野であり、対象の大きな変化に振り回されてきた。本書は、オーラルヒストリーと交えた実証的研究史であり、多様な視点の交錯から中国学への新たな視座と可能性を探る試みである。 1803/225-5/448 A5上製カバー／五〇〇〇円

雲南・広西の近代思想を、雑誌『雲南』など地域メディアから書き、軍国民主義・植民論といった当時最先端の議論を分析。植民地主義や南進論へと至る北からの思想連鎖と、東遊運動や独立論という南からの応答を対比。近代アジア思想史の空白を埋める。 2003/1500/330 A5上製カバー／五〇〇〇円

Yasuhiko NAGANO 著

rGyalrong

A Comprehensive Grammar

嘉戎語 = rGyalrong = ギャロン語は、チベット・ビルマ系語派の「生きた化石」と言われ、中国四川省北部の山岳地帯に残る言語。精密な分析に加え、基礎語彙一五六七語と本文と連動したCD-ROM、日常表現二六〇〇の音声を取録したCD-ROMを付す。 2111/305-4/400 A5上製カバー／一万円

ゴールドスタイン他著／楊 海英監訳／山口周子訳
チベットの文化大革命
神懸かり尼僧の「造反有理」

文革が燃えさかる一九六九年、各地で派閥間抗争が繰り広げられていたチベット。若い尼僧が主導したニエモ果の事件はその凄惨さと特異性によって様々に語り伝えられている。本書は初めてその全貌を描き出した人類学者によるドキュメンタリー。1209/1821/384 A5並製カバー／3000円

TANAKA Sadao
L'École de l'Étoile du Matin
un échange culturel franco-japonais

田中貞夫著『暁星学校 日仏文化の二交流』は、仏語教育およびフランス文化の紹介に大きな役割を果たした暁星学校の創立期を、日仏文化交流史の観点から描いた仏文著作。母体のマリア会の活動や、米日修道士の評伝、教育内容を紹介。9809/839/328 A5上製カバー／21000円

ブラジル日本移民百年史《全五巻》
《第三巻のみ刊行》

現地事情により日本での刊行は中止となりました。小社で刊行したのは第三巻「生活と文化編(1)」(1012/501/0/600 A5上製カバー／18000円)のみです。残りは現地での編集・製作とのことです。よろしくご諒承をお願いいたします。

同編纂委員会編【日本移民百年史 別巻】
目でみるブラジル日本移民の百年

第一回移民船出港以来一〇〇年の、日系人の苦闘と栄光の歩みをたどる。現地の総力を結集し、厳選した写真に詳細な解説を付した決定版。多文化社会を生き抜いてきた人々の貴重な経験は、二一世紀の日本人の共有財産である。日ポ語並記。0804/5003/208 B5並製カバー／19050円

●民俗・宗教・文学

品切：『モンゴル英雄叙事詩の構造研究』

劉 枝萬著
台湾の道教と民間信仰

シヤマニズム・呪法・年中行事など多彩な民間信仰の実態を、巫俗の系譜から検討し、道教の祭祀・儀礼との関連を分析。中国・東アジアの視点から、漢民族固有の民俗に迫る。口絵三四頁と詳細な分類索引を付す。9412/022/496 A5上製カバー／8000円

劉 枝萬著
台湾の法教
閩山教科儀本と符式簿の解説

清末から日本統治初期にかけて閩山教系の一派が相伝した科儀本二四点の全貌を紹介。さらに一二三件の符令原本から、法師の奉じる神仙や呪法、法壇における儀礼をつまびらかにし、法教の実践を再現。著者の民間信仰研究の到達点を示す大著。1901/2514/816 A5上製カバー／18000円

川野明正著
中国の「憑きもの」
華南地方の蠱毒と呪術的伝承

日本の「憑きもの」信仰形成にも影響を与えたとされるながら、実態が明らかにならなかった。蠱毒(霊的な毒物)、五通神、鬼人(生霊的靈物)、恋愛呪術等、中国南部に顕著な呪術的民俗伝承、文書と实地調査から克明に分析した労作。0603/3010/376 A5上製カバー／5000円

大淵忍爾著
中国人の宗教儀礼
道教篇

儀礼研究の原典ともなった名著(八三年刊)の抜粋復刻。仏教と民間信仰部分を除く台湾および香港の道教儀礼部分に、著者晩年までの補訂・付論を加え、索引を付す。概論・醮の儀礼・奏職の儀礼・功德の儀礼等に口絵二八頁。0605/3002/924+28 B5上製カバー／18000円

酒井忠夫編
台湾の宗教と中国文化

台湾の民間信仰・道教を、中国(宗教)史全体の流れの中で考察し、華北に偏りがちだった道教史研究に新しい地平を拓く初の試み。正一派道教・台湾仏教等、幅広い主題の十一論文を収録。山崎宏博士頌寿記念出版。9206/006/320 A5上製カバー／4500円

鄭 正浩著
漢人社会の礼楽文化と宗教
神々の足音

漢人社会における媽祖・瑤池金母・無生老母などの女神信仰の伝承を考察し、扶養宣化から繁雑な齋醮儀礼まで多様に発展を遂げた祭祀儀礼を分析。「降神の儀と神々の託宣」等の論考から、中国古来の礼楽文化と神秘思想の関わりを探る。0903/1371/444 A5上製カバー／18000円

崔 吉城・日向一雅編
神話・宗教・巫俗
日韓比較文化の試み

藤井麻湖著
モンゴル英雄叙事詩の構造研究

品切

文学、民俗学を専門とする日韓の研究者による共同研究の成果。「仏伝図」
絵解きの東漸、「三国遺事」の文学史的時代、大陸の日月神話と源氏物語
の王権、韓国の旅芸人と社会等の主題から、東アジアにおける両国文化の
位相に迫る。 9912/405/320 A5上製カバー／五〇〇〇円

モンゴル英雄叙事詩において、表向き主人公の武勳を称えながら、隠喩に
おいてこの主人公を抹殺する、という二重構造が隠されていることを、各
種テキストにおいて論証。さらに読者に委ねられた隠喩、隠喩の静態性・
動態性をも提起した好著。 0311/015-1/312 FOD／六〇〇〇円

長野泰彦・森 雅秀編
チベットの宗教図像と信仰の世界

北澤直宏著

ベトナムのカオダイ教

新宗教と20世紀の政教関係

和田理寛・小島敬裕・大坪加奈子・増原善之・
下條尚志・杉本良男著

東南アジア上座部仏教への招待

八〇万信徒を有する宗教団体の一〇〇年の歩み―複雑に混淆する教理や
人事、波乱に満ちた政治社会情況との糾糸曲折―を丹念に解き明かす。
大戦、仏、米との戦い、そして宗教弾圧の中、しぶとく生き延びてきた教団
の「生命力」の源泉に迫る。 2102/271-2/276 A5上製カバー／五〇〇〇円

カンボジア・タイ・ラオス・ミャンマー・雲南省・ベトナム。豊富な現地調
査や出家体験から語る、人々の信仰と実践、そして社会。似て非なるも
う一つの仏教を知る、待望の入門書。(付・カラー図録 特別コラム…スリ
ランカ。 2110/304-7/204 A5並製カバー／一八〇〇円

大西和彦著
ベトナムの道教と民間信仰

近刊

道観や道教儀礼が明瞭に残るものの、戦後の研究史に長く空白を呈して
きたベトナム。本書は、著者十余年にわたる現地滞在調査の知見によつて、
一挙にその全体像を立ち上げ、さらに中国道教史との関係をも展望する。
画期的な論考。 /0244/ A5上製カバー／六〇〇〇円

●芸能・映像・音楽

野村伸一編

東アジアの祭祀伝承と女性救済

目連救母と芸能の諸相

野村伸一著

東シナ海祭祀芸能史論序説

廣田律子著

中国民間祭祀芸能の研究

馬場英子編

浙江省舟山の人形芝居

侯家一座と「李三娘(白兔記)」

鈴木 勉著

インディペンデント映画の逆襲

フィリピン映画と自画像の構築

柳 敏榮著／津川 泉訳

韓国演劇運動史

地獄の亡母を救う目連の伝承は、盂蘭盆会の起源とも言われ、東アジア各
地で女性救済の文化に豊かなバリエーションを与えている。本書は日中韓
の祭祀・芸能の諸相から、死生観や靈魂観、さらに文化史の再考をも迫る
注目の論集。 0708/120-3/528 A5上製カバー／七二〇〇円

東シナ海周辺各地には今なお数多くの祭祀と芸能が行われている。朝鮮半
島南部の巫女のクツ、沖縄の豊年祭、台湾の王爺祭祀、中国江南の媽祖信
仰……独自の光彩を放つ芸能の諸相を貫く共通の原風景はあるのか。著
者渾身の集大成。 0909/139-5/386 A5並製カバー／三〇〇〇円

「まれびと」論から中国江南の儺戯を分析するなど、折口理論を中国の祭祀
芸能に適用。また日本や少数民族の事例を加え、東アジアにおける芸能文
化の差異と類似をも検出。豊富な資料を解析しつつ、実証的に折口理論の
今日性を示した画期的業績。 1101/173-7/740 A5上製カバー／八八〇〇円

村祭、廟祭、家庭の慶弔事などに演じられてきた布袋木偶戯(指遣い人形
芝居)は、今日急速に姿を消している。本書は、現在も活動を続けている一
座の上演をそのまま活字化(日本語全訳)。さらに演目や活動概要、解説を
付した決定版資料集である。 1102/173-9/532 A5上製カバー／九六〇〇円

シネマと「自由」を意味するマラヤを冠したフィリピン最大の独立系映画祭
「シネマラヤ」。ここには暴力・貧困・差別など、虐げられてきた土着の「リアル」
がある。権力を拒み、「失われた自由」を回復しようとする映画人たちの
製作現場と生きざまに迫る。 2005/127-2/384 A5並製カバー／三〇〇〇円

開化期、日帝時代、動乱、そして民主化。百余年の曲折を、韓国社会と
舞台の表裏から克明に描く。演劇史の第一人者が、詳細な資料と聞き取り
により、低迷も隆盛も、そしてその要因も描ききった大著。補遺、訳者ノー
ト、関係年表、索引を付す。 2012/283-9/720 A5並製カバー／四〇〇〇円

野村伸一・竹内光浩・保立道久編
能楽の源流を東アジアに問う
多田富雄『望恨歌』から世阿弥以前へ

「恨」と「幽玄」の軌跡が交わる時——。韓国の老農婦の悲痛な姿から『望恨歌』は書かれた。夫は「強制連行」により九州の炭鉱で果てたという。本書は、この演目を歴史・民俗・文学・文芸・演者の立場から考察、「能」の起源への新たな視点を探る。 2112/317/304 A5並製カバー／一八〇〇円

崖 吉城・北村皆雄編
映像の植民地朝鮮

仮題・近刊

絵葉書、学術資料写真、そして記録・宣伝・劇映画等、様々な媒体に残された植民地・朝鮮。それら映像は貴重な時代の証人であり、文字では隠された「真実」をも語る可能性を秘めた進行形の資料でもある。映像民俗学が掘り起こす時代の語り部たち。 /1562/ A5並製カバー／価格未定

●文化遺産・観光・建築

河野 靖著
文化遺産の保存と国際協力

ユネスコや国際社会が、民族や宗教、開発や環境という現代の課題の中で育んだ保存の理念を、ポロドゥールやヌビア遺跡等の保存救済事業の現場から考察。アジアと欧米の文化観の相違、政治や行政の役割、日本の国際貢献などを探る。 9506/545/720 A5上製カバー／一五〇〇円

梶 亨著
自治体の文化政策
二一世紀の地域文化戦略

文化行政に携わってきた著者による自費公開出版。文化のまちづくり、文化財行政、パートナーシップ型文化行政への転換等、実例と提言を盛り込んだ意欲的な政策論。行政マンはもちろん、新たな地域社会を考える市民にも必読の書。 0005/9000/269 四六上製カバー／一九〇五円

岩本通弥編
世界遺産時代の民俗学
グローバル・スタンダードの受容をめぐる日韓比較

欧米の先導する文化遺産保護の潮流に、両国の当事者がいかに対応したのか。文化財保護法の展開、無形文化遺産の概念の確立、文化景観をめぐる対応など、多角的に比較検討。自然観・文化観の相違や、市民運動などさまざまな要因を描く。 1302/1852/424 A5上製カバー／五〇〇〇円

清水郁郎著
家屋とひとの民族誌
北タイ山地民アカと住まいの相互構築誌

伝統を重んじる人々の村落観や家屋モデルを分析し、その霊的世界観や慣習的知識を抽出。一方、人や生活との関わりの中ではそれが固定的観念ではなく、モデルも変容して行く様を解明。人類学と建築学の融合から「住まこ」の生態学に迫る。 0503/7016/420 A5上製カバー／八四〇〇円

同論文集編集委員会編

日本における華僑華人研究

游仲勳先生古希記念論文集

永年、華僑・華人研究をリードしてきた游氏の古希に際し、内外から寄せられた論文集。華人の企業経営・華人のネットワーク、日本の華僑・華人など、多岐にわたる主題で、今日の研究水準を示す。付、游仲勳先生略歴および業績一覧。0305/0372/420 A5上製函入/八〇〇〇円

岩崎育夫著

シンガポール国家の研究

「秩序と成長」の制度化・機能・アクター

品切

多様な国家像が林立する現代世界にあって、歴史浅く、小さな人造・移民の国ながら、アジア有数の成長と繁栄を誇るシンガポール。社会工学の観点からその精緻・強力な統治システムを徹底解剖し、国家と統治の意味を問う貴重な論考。0509/0201/8/360 A5上製カバー/五〇〇〇円

宮沢千尋編

アジア市場の文化と社会

流通・交換をめぐる学際的まなざし

均質化するグローバル市場経済の原理主義を疑い、東南アジア・イラン・モンゴル・西アフリカ等、多様な地域事例をもとに、固有の文化・社会的脈絡で機能する様々な「市場」の原理を考究。待望の論文集。〔南山大学人類学研究所叢書〕0511/0402/284 A5上製カバー/四〇〇〇円

新江利彦著

ベトナムの少数民族定住政策史

焼畑を産業とする少数民族が散居するベトナム中部高原は、戦後、水源開発や開墾・入植など様々な政策が適用されている。本書はODAのための調査で浮かび上がった問題点を分析し、循環型で持続可能な開発を提言する労作である。0708/1159/440 A5上製函入/八四〇〇円

原不二夫著

未完に終わった国際協力

マラヤ共産党と兄弟党

マラヤ共産党など東南アジアの共産党と、中国・ベトナムなど社会主義国は、近い将来各国に社会主義政権を打ち建てるために、「密かな国際協力」を進めていた。見果てぬ夢に終わった。知られざる歴史の一面を多くの史料をもとに克明にたどる。0303/4148/304 A5上製カバー/四〇〇〇円

帆刈浩之著

越境する身体の社会史

華僑ネットワークにおける慈善と医療

グローバル化には、疫病の伝播、異郷での死といった負の局面も伴う。本書は、近代中国が直面した国際化とその対応を、香港の事例から考察、伝統的な医療や社会組織の変容・適応を再評価しながら、アジア史への新たな視点を大胆に提示。1403/1302/388 A5上製カバー/四〇〇〇円

矢野順子著

国民語の形成と国家建設

内戦期ラオスの言語ナショナルリズム

一九七五年まで三〇年にわたる内戦に揺れたラオス。対立する両陣営がともに選んだ国民統合の軸は言語であった。タイ語・フランス語という新旧の支配語へのスタンスやプロバガンダなど、国民語形成へのさまざまなアプローチを詳解・分析。1302/1876/344 A5上製カバー/四四〇〇円

砂漠化が進む高原に半世紀にわたり緑を植え続けてきた男。その周りに生まれた連帯が、やがて国際的ネットワークとなっていく。本書は彼をめぐる言説を資料化し「オープンテキスト」として提出しようとする試み。資料C D付き。1003/1893/354 A5上製カバー/三六〇〇円

深尾葉子・安富 歩編

黄土高原・緑を紡ぎだす人々

「緑聖」朱序弼をめぐる動きと語り

森林・地形を巧みに利用する防災の思想・技術。「抱護」。それは風水思想とも絡み合い、近世琉球の環境・景観を形成してきた。失われた琉球列島「抱護」を史料や現地調査をもとに復元整理。その意義を新たな環境・生態概念へとつなげる試み。1902/2552/384 A5上製カバー/五〇〇〇円

吉田 舞著

先住民の労働社会学

フィリピン市場社会の底辺を生きる

マイノリティはなぜ貧しくなるのか。グローバルゼーションのもと、不可欠な人でありながら、「劣った労働力」と見なされ、力尽きれば路上生活に追いやられる先住民。生活現場の実態調査から「先住民底辺化」の構造を解明。1802/2161/294 A5上製カバー/四〇〇〇円

首藤明和・王向華編

日本と中国の家族制度研究

残部僅少

社会学・人類学・民俗学・歴史学・思想史の多彩な知見が、「イエ」〔Janzi〕〔Famili〕の「営み」に分け入り、当事者（＝家族）の視覚や社会との交点をつぶさに論議。色あせぬ座標軸となつた香港大学の国際シンポジウムの成果。1903/2613/472 A5上製カバー/六〇〇〇円

申明直編

東アジア市民社会を志向する韓国

民主化と高度成長を成し遂げた韓国は、二〇〇万を超える移民の住む多文化社会にも急変した。競争と格差、非正規就労や高齢化の波に直面する庶民の問題を移民たちの問題と同根と見なし、さまざまな活動を行ってきた著者たちの実践レポート。1903/2606/304 A5上製カバー/四〇〇〇円

松田素二とゆかいな仲間たち著

雑草たちの奇妙な声

現場つてなんだ?!

ケニア・タイ・ネパールといったフィールド、日本における社会運動・環境問題の現場。退官を機に「在野」門下たちが、「そこで暮らす、それがごく自然な日常となるような状態」から、それぞれの人生を語る。「ポリフォニー」過ぎる多重奏。2103/2958/466 A5並製カバー/三〇〇〇円

林 美容・三尾裕子編
台湾民間信仰研究文獻目録

日本植民地時代から今日までの日本語による文獻を網羅した初の目録。道教・風水・シヤマニズム、多様な信仰が渦巻く台湾の宗教世界を案内。解説＝「日本の台湾民間信仰研究」(三尾)、年代順一覽、文獻標題語彙索引を付す。983/96/0/208

A5並製カバ／三五〇〇円

山口洋兒編

日本統治下ミクロネシア文獻目録

紀行・殖民・民族・言語・軍事・統計など、明治から終戦までの南洋に関する文獻を網羅。随一のコレクターでもある編者が、内容を簡潔に紹介。雑誌記事一覽・戦記目録および分類索引を付した決定版。(序文 石川栄吉他) 0009/98/7/416

A5・FOD／八〇〇〇円

索 文清編

チベツト研究文獻目録

〔中文・日文 一九四五一—一九九七〕

戦後、中国と日本で発表された著書・翻訳書・文獻・資料の目録。蒙古・メンバ・ロッパ・チヤン・プミ・ナシ族等周辺諸族の研究にも目配りし、台湾・香港の文獻も収録。さらに、公刊されていない中国諸機関の内部発行資料を初めて紹介。991/80/4/280

A5並製カバ／四〇〇〇円

石田憲司主編

道教関係文獻総覧

明治以降一世紀にわたる邦文文獻を網羅。近年著しく増加した道教研究ブローカーのみならず、文学・本草・風水など関連分野、中国少数民族や沖縄・東南アジアなど周辺地域も遺漏なく視野に入れた初の総合目録。人名・事項索引付き。0112/600/1/560

A5上製函入／二〇〇〇円

川越泰博・荷見守義編

新編東洋学論集内容総覧

明治初年以來刊行された、七〇〇冊に及ぶ東洋学関係の論文集の目次内容を通覧する工具書。歴史・民族・宗教をはじめ、考古・美術など多岐にわたる学問分野と、アジア全域をカバー。専門家・図書館に必備の書。9701/03/0/590

A5上製函入／二〇〇〇円

末成道男編

ベトナム文化人類学文獻解題

日本からの視点

ドイモイ以降急速に行われた現地調査の蓄積はおびただしいものがある。本書は、ベトナムに関する文化人類学およびその関連分野の研究動向を概観し、おもな業績をえらび、その主要なものに解題を付したものである。人名・事項索引付き。0903/140/1/384

B5上製カバ／六〇〇〇円

李 紹明・松岡正子主編

四川のチヤン(羌族

汶川大地震をのりこえて(1980～2009)

二〇〇八年の震災で崩壊した羌族の生活基盤。観光を軸にした復興事業の中で見失われかねない民族文化を、日中研究者の貴重な写真をもとに残そうとする試み。石碣や住宅、シヤーマニズムや家族生活などを、四川省民族研究所の協力のもと再現。1003/143/2/416

B5上製カバ／四八〇〇円

岩切成郎著

写真野帳 海村島人

東南アジア・南太平洋の海域社会

伝統と開発に揺れる太平洋の島嶼群。その多様な村落生活を、生業・信仰・家族・芸能などの観点からとらえた。目で見える生活百科。漁業経済学調査と、ヒューマンな交流から得た、フィールド・フォト・メッセージ。(写真三四三巻) 9807/81/2/144

B5上製カバ／七五〇〇円

岡野 護編著

年表 移住150年史

邦人・日系人・メディアの足跡

幕末から二〇二〇年まで、一四か国・地域と日本国内の移民に関する出来事を網羅。写真口絵、重要語句解説、地域別移住略史、索引などで、外地に暮らす邦人・日系人の歴史の全容を展望。各地の邦字新聞やラジオ等の活動もおさめた決定版。2009/280/4/392

A5上製カバ／五〇〇〇円

野口鐵郎編註

訳注 明史刑法志

平明な日本語訳に、精密な注釈(書名・人名・制度名や、原文記述に関連する文獻史料)を加え、その索引を付す。政治史・社会史研究の前提となる法政史の研究の中でも、特に重要な明代刑法の分野における基礎的文獻の決定版。0101/007/0/400

A5上製函入／二〇〇〇円

酒井忠夫・今井宇三郎・吉元昭治編

中国の靈籤・藥籤集成

おみくじの原型、中国寺廟の籤(せん)の分類集成。清末から現在まで、北京・台湾・香港等で広く収集した四十余种三千余枚。民衆の吉凶観や薬方知識が系統的に示された、易学・道教・東洋医学の基本資料。

9206/01/4/558 B5上製函入／八五〇〇円

●台湾原住民研究資料叢書

等原政治編

日本の台湾原住民研究文献目録

〔一九四五—一九九六〕

アミ・タイヤル・平埔など台湾原住民諸族に関する文献を網羅。文化人類学・言語学を中心に、戦後の業績を一望にすべしとする待望のツール。著者別分類の本編に各族別分類を付す。『台湾原住民研究』別冊1号。A5並製カバ―／一五〇〇円

台湾原住民研究シンポジウム実行委員会編

台湾原住民研究

日本と台湾における回顧と展望

二〇〇五年、東京外大A.A.研で行われた日米・台湾の国際シンポジウムの成果。原住民出身の研究者からの報告も交え、従来の研究蓄積を新たな視点から振り返り、今後の方向性を模索した挑戦的な内容。台湾原住民研究誌・別冊2号。0510/65-0/220 A5並製カバ―／二五〇〇円

日本順益台湾原住民研究会編

台湾原住民研究概覧

〔日本からの視点〕

日本民族学揺籃の地・台湾は、多くの先駆的業績を生み出したところでもある。本書は、そうした流れを踏まえて原住民研究の歴史と現状を解説し、主要文献解説・資料を付した、初のエスニック・グループ単位の研究案内である。0207/0674/432 FOD／八〇〇〇円

日本順益台湾原住民研究会編

台湾原住民研究の射程

接合される過去と現在

順益台湾原住民博物館二〇周年記念論文集。日本の民族学や文化人類学調査の端緒は、アイヌ研究と、日本にとってはじめての植民地となった台湾における原住民の研究であった。一〇〇年余の研究蓄積と最新の動向を踏まえ、今後の展望を示す。1406/873/400 A5変上製カバ―／五〇〇〇円

●モンゴル学研究基礎資料

楊 海英・雲 廣編

内モンゴル自治区シレート・ジョー寺の古文書

区フフホト市
ダー・ラマワンチュクのコレクション

寺院縁起・文書解題及び五一点のモンゴル語・漢語文書を収録。有力寺院とその属民との契約文書には、当時の経済状況や日常生活が克明に示され、さらに漢化の状況や多民族間の軋轢なども読みとられる。激変する社会を活写する重要資料。0612/8713/134 B5並製／二〇〇〇円

楊 海英編

内モンゴル自治区オルドス市
档案館所蔵の二種類の版本

今もモンゴル人が日常的に語る年代記『エルデン・トブチ(蒙古源流)』は、歴史を生きた形で受け継ぐ貴重な文献である。本書はその写本の中で、オルドス市档案館所蔵の二つの版本を写真版で収録し、解説を付したものである。0711/8721/210 B5並製／三〇〇〇円

楊 海英著

モンゴルのアルジャイ石窟

その興亡の歴史と出土文書

アルジャイ石窟はモンゴル史・北アジア史の鍵を握る遺跡として、発掘・研究が進められている。本書は、その歴史を詳細にたどり、また出土したウイグル・モンゴル文書群の全容を解説、今後の研究を展望するものである。(付録・図版多数) 0806/8738/364 B4並製／五〇〇〇円

楊 海英編

『十善福白史』と『輝かしい鏡』

オルドス・モンゴルの年代記

南モンゴルのオルドス出身の知識人オノノス氏が保管していた写本類。その中から、オルドス・モンゴルに伝わる貴重な年代記二点「十善福白史」と『輝かしい鏡』を影印出版。詳細な解説を付す。チンギス・ハーン祭祀などの基礎資料。0803/8743/120 B4並製／一五〇〇円

バトシヤラガル・楊 海英著

阿爾寨石窟〔中文版〕

成吉思汗的佛教紀念堂興衰史

敦煌と並ぶ仏教遺跡であり、チンギス・ハーン埋葬の謎を秘めた北アジア最大級の文化遺産。内モンゴル・オルドス高原で一九八〇年代末に発見されて以来、世界の注目を集めてきた石窟寺院の詳細な報告書。(図版三三八葉)(中文のみ) 0508/8705/224 A4並製／四八〇〇円

楊 海英著

モンゴルの仏教寺院

毛沢東とスターリンが創出した廢墟

かつて一九〇〇を数えた寺院はイデオロギーの暴風によりほぼ廢墟に化し、東洋学の根幹をなした学問寺の伝統は風前の灯火となった。三〇年にわたる現地調査・聞き取りの成果と貴重な写本資料を満載、「廢寺の民族誌」そして「僧侶の民族誌」である。2101/283-4/314 A5並製／三〇〇〇円

今西淳子・Ulzibaatar Daberd, Husel Borjigin 編

北東アジアの新しい秩序を探る

A New Global Order in North East Asia

今西淳子／ボルジギン・フスレ編

ノモンハン事件（ハルハ河会戦）七〇年

二〇〇九年ウランバートル国際シンポジウム報告論文集

ボルジギン・フスレ／今西淳子編

20世紀におけるモンゴル諸族の歴史と文化

二〇一二年ウランバートル国際シンポジウム報告論文集

楊海英編

内モンゴル自治区の文化大革命（一）

モンゴル人ジェノサイドに関する基礎資料

二〇〇八年六月、ウランバートル市で行われた国際シンポジウム「北東アジアの新しい秩序を探る」アーカイブズ・歴史・文学・メディアからみたグローバル化のなかの世界秩序 北東アジア社会を中心に」の報告書。日・英・蒙の多言語編集集。0903/601-7/400 **B5並製**／八〇〇〇円

事件七〇周年を期して行われたシンポジウムの成果。モンゴル民族分断の一因であり、大戦の行方を左右した大事件でありながら、口口をはじめ、関係諸国の共通認識への道は遠い。様々な議論を日・英・蒙の多言語でそのまま提示した貴重な論集。1003/602-4/620 **B5並製**／二〇〇〇円

モンゴルが清朝から独立して七百年を記念して行われた国際シンポジウムの成果。国境をまたぐモンゴル諸民族がどのようなプロセスを経て現在の状況に至ったのかなど、最新の資料や学説を踏まえた二三の論文を収録。日・英・蒙の多言語版。1203/603-1/620 **B5並製**。一〇〇〇〇円

内モンゴル自治区の文革に関する第一次資料を解説、影印するシリーズ。 **A4並製**

- 第一巻「陳海清將軍の講話を中心に」 0901/881-3/920 一〇〇〇円
- 第二巻「内モンゴル人民革命党肅清事件」 1002/882-0/820 八〇〇〇円
- 第三巻「打倒マラーンフ（烏蘭夫）」 1101/883-7/1102 一〇〇〇円
- 第四巻「毒草とされた民族自決の理論」 1203/884-4/996 一〇〇〇円
- 第五巻「被害者報告書（一）」 1303/885-5/810 一六〇〇円
- 第六巻「被害者報告書（二）」 1401/886-6/692 四〇〇〇円
- 第七巻「民族自決と民族問題」 1502/887-5/1234 一〇〇〇円
- 第八巻「反右派闘争から文化大革命へ」 1603/888-2/956 一〇〇〇円
- 第九巻「紅衛兵新聞（一）」 1701/889-9/1086 一〇〇〇円
- 第十巻「紅衛兵新聞（二）」 1802/890-5/1174 一〇〇〇円
- 第十一巻「加害者に対する清算」 1902/891-2/1028 一〇〇〇円
- 第十二巻「モンゴル語政治資料」 2001/892-9/984 一〇〇〇円
- 第十三巻「加害者に対する清算から被害状況をめぐり」 2103/893-6/824 一八〇〇円

●アジア研究報告

末成道男編

東アジアの現在

人類学的研究の試み

植野弘子・蓼沼康子編

日本の家族における親と娘

日本海沿岸地域における調査研究

三尾裕子・本田 洋編

東アジアにおける文化の多中心性

瀬川昌久編

文化のデイスプレイ 東北アジア諸社会

における博物館、観光、そして民族文化の再編

三尾裕子編

民俗文化の再生と創造

東アジア沿海地域の人類学的研究

芹澤知広・志賀市子編

日本人の中国民具収集

歴史的背景と今日の意義

品切

変動期にある東アジアを、中国周辺諸社会の微視的な調査から触診し、その変容過程の共通性と異質性を探る試み。国際學術研究「周辺からみた中国の変動過程に関する人類学的研究」の成果。日・英・中・韓・越語レジュメを付す。9705/94-4/376 **A5並製カバー**／三〇〇〇円

* 科研その他の研究報告から、野心的成果を選び刊行するシリーズ。報告書と正式公刊の中間に位置する実験的試み。

シュウトノツトメ・センタクガエリ……、伝統的に実家と嫁いだ娘が強い絆を持つ、山形・新潟・福井の諸地域の事例を通し、日本の家族を再考。「家制度」のイデオロギーを離れて、女性の持つ多様なあり方を示す、斬新な報告。0006/800-4/152 **A5並製カバー**／一五〇〇円

「伝統文化」が観光開発され、様々に展示・紹介される今日、民族文化とその「デイスプレイ」の間の相互作用は、文化の再編・再定義とも絡み「民族」「文化」研究の焦点となっている。（東北大学東アジア研究センター叢書の市販版）0303/803-9/254 **A5並製カバー**／二五〇〇円

発展著しい沿海地域において、逆に「古い」民俗文化が再活性化しつつある現象に着目。中華文明に象徴される「中心」と「周縁」文化との関係性について再考。その動態や文化の個別化・画一化の相互作用等に、多様な事例から迫る。0503/804-7/300 **A5並製カバー**／三〇〇〇円

戦前、玩具や民具など中国の民俗資料が様々な形で収集されたが、歴史によって中断され、多くの資料は四散した。本書は、今日の物質文化や歴史研究の方法から、収集活動を分析・再評価し、研究史の空白を埋めようとする試みである。0803/805-9/208 **A5並製カバー**／二〇〇〇円

ボルジギン・フスレ編
日本・モンゴル関係の近現代を探る
国際関係・文化交流・教育問題を中心に

ボルジギン・フスレ編
日モ関係の歴史、現状と展望
21世紀東アジア新秩序の構築にむけて

ボルジギン・フスレ編
国際的視野のなかの薄儀とその時代

三度の「日本・モンゴル青年フォーラム」からフレッシユな論考を結集。複雑な北東アジアで、日本とモンゴルの関係はどのように構築され、今後どのように構築していくべきか、近代以降の日モ関係を中心に若手の研究成果をまとめた論文集。 1508/8066/204 A5並製カバー/二〇〇〇円

二〇一五年・第八回日モ国際シンポジウム「日モ関係の歴史、現状と展望…21世紀東アジア新秩序の構築にむけて」の成果論集。終戦後の日モ交流をふりかえり、両国の関係を基軸に、東アジア各国の国際関係の歴史と現状、およびその課題を再検討。 1603/8073/220 A5上製カバー/三五〇〇円

関係諸国の膨大な史料をもとに、歴史・社会・政治・文化などの最新の研究成果を概観、国際的視野のなかで薄儀とその時代を再評価。二〇二〇年の昭和女子大学一〇〇周年記念国際シンポジウム「国際的視野のなかの薄儀とその時代」の成果。 2103/8097/152 A5並製カバー/二〇〇〇円

●アジア文化基本文献

J・テルヴェール著／石澤良昭監修／及川浩吉訳
カンボジアの農民
自然・社会・文化

一九五〇年代に著者自ら行った調査を基に、六一年に刊行された大著の翻訳。その後の動乱によって失われた農村文化や社会生活を始め、地誌・自然までが詳細に記述されており、カンボジアの基層文化を知る貴重な百科全書的原典である。 0211/001J/656 A5上製函入/一五〇〇〇円

●アジア・グローバル文化双書

今永清三著
東方のイスラム

品切

アジア・太平洋双書を改称、対象をワールドワイドにした。
品切：『東方のイスラム』『アンテオキアのイグナチオ』
品薄：『モンゴルとイスラーム的中国』『欧米人の見た開国期日本』
世界最大のイスラム教人口をもつインドネシア、シリア派や中国系ムスリム社会をかかえるタイ等、東南アジアに深く広がるイスラム教。知られざるアジアのムスリム達の、多様な生活・信仰を紹介する初の概説書。
9206/11/256
四六上製カバー／二五〇〇円

東 一夫著
歴史を彩る中国の女性
近代化への脈動

品薄

宗族制や儒教倫理に縛られた女性像を、宋代を転機とした近代化の動きの中で捉え直すもう一つの女性史。そして女性家族から見た「王安石」伝。強い束縛の中で個性的に生きた中国女性の生き方を描く。
9210/12/X/218
四六上製カバー／二五〇〇円

中島成久著
ロロ・キドゥルの箱
ジャワの性・神話・政治

品切

悪魔祓いの儀式「ルワタン」や「南海の女王」ロロ・キドゥルに捧げられたワヤン劇、戦後最大の政変劇「九・三〇事件」等から、歴史を動かすモメントとしての王権・儀礼、インドネシア民衆の神話的世界観やインセンス像を描く。
9311/13/8/296
四六上製カバー／二八〇〇円

A・コルベジエト渡辺高明編訳
アンテオキアのイグナチオ
七つの手紙とその足跡

二世紀初頭、ローマで殉教した、シリア初代教会の教父イグナチオの書簡集。殉教への憧れや恐れ、異端への怒りを吐露し、「受難」「復活」への思索を示すなど、キリスト教成立期の教会や教説を知る基本文獻。詳細な解説・補注を付す。
9405/14/9/236
四六上製カバー／二五〇〇円

A・コルベジエ著
秩父事件とパリ・コミューン

一九世紀の末、パリと秩父で起きた二つの事件を結びつけるものは何か。在日四十年年のフランス人神父が、豊富な史料と実地調査から掘り上げた、民衆蜂起の論理と倫理。困民軍の総理・田代栄助の尋問調査の精読から事件の真相に迫る。
9510/15/4/200
四六上製カバー／二〇〇〇円

崔 吉城著
韓国民俗への招待

別神祭の巫儀(クツ)、焼肉と在日韓国国民、反日感情の文化人類学、韓国における日本文化の受容と葛藤、韓国現代社会に感づける「青春」等、フォークロアの最新線でご考察する民族文化の根源。日韓相互理解のための基礎講
9609/16-2/304
四六上製カバー／二五〇〇円

新津晃一・秦 辰也編
転機に立つタイ
都市・農村・NGOから

発展著しいタイの都市や農村で、その影にあるさまざまな矛盾に立ち向かう日タイのボランティア達。スラム・森林破壊・少数民族問題・伝統文化の喪失……、現代社会の至みに笑顔と工夫で対応するNGOからの最新のレポート。
9702/17/0/256
四六上製カバー／二五〇〇円

日本順益台湾原住民研究会編
台湾原住民研究への招待

人類学、言語、歴史、考古等の最新の研究を基に、多様な文化および歴史と現状を紹介する初の入門書。体験エッセーを始め、年表や文献案内、基礎語彙比較表、施設紹介、ホームページやCDまで収めた総合小百科。
9805/19/7/288
四六上製カバー／二五〇〇円

堀 黎美著
現代中国文学の女性たち
家族・仕事・性

解放・文革そして改革開放と、激動する中国社会にあつて大きく揺れ動く女性の地位、生活。現代文学の名篇十作品を厳選し、妻、母、労働者、そして女として生きる主人公の姿から、六億余の女性たちの現在を読み解く。
9709/18/9/288
四六上製カバー／二五〇〇円

M・ウルフ著／中生勝美訳
リン家の人々
台湾農村の家庭生活

台湾漢族の伝統的大家族の中で暮らした二年間。米人女性人類学者の眼から見た親族・宗教・性……。生き生きと描かれた一九六〇年前後、農村社会家庭生活の肌触り、様々な人間関係は、中国社会を知る上で、最上の入門書である。
9810/20/0/232
四六上製カバー／二五〇〇円

西澤治彦著
中国映画の文化人類学

「黄色い大地」「芙蓉鎮」「心の香り」「悲情城市」等、八〇年代から九〇年代にかけて光彩を放った中国・台湾・香港映画。文化人類学者の著者は、これらをテキストあるいはフィールドとして読み解き、現代中国社会のコンテキストに迫る。
9908/21/9/302
四六上製カバー／二五〇〇円

中生勝美編

植民地人類学の展望

植民地と戦争の影に隠された日本民族学史に光をあて、先学達が「時代の流れ」の中でどのように研究しいかなる成果を残したかを解明。日本の「オリエンタリズム」の功罪を旧調査地から振り返り、人類学の今日の意義を再検討する。
0008/100-X/278
四六上製カバー／二五〇〇円

川越泰博著

明代中国の疑獄事件
藍玉の獄と連座の人々

明の洪武帝は、皇帝権強化や政治改革のため五つの疑獄事件を發動したといわれる。本書は、従来功臣や官僚排除のためにつくられた「藍玉の獄」をつぶさにとらえ直し、洪武帝がこの事件で真に意図したのは何か、を探究する。
0201/011/9/296
四六上製カバー／三〇〇〇円

K・ガードナー著／田中典子訳

品薄

河辺の詩

バンクラデシユ農村の女性と暮らし

Y・F・ウーン著／吉原和男監修・池田年穂訳
生寡婦（グラスウイドウ）
広東からカナダへ、家族の絆を求めて

可児弘明著

民衆道教の周辺

飢餓・災害や経済援助などでしか語られないバンクラデシユ。本書は、平凡な農村に住み込んだ女性研究者が、出産や結婚、出稼ぎ、イスラムと民間信仰、男尊女卑と妻の実権など、様々な事象を通して女性の暮らしを描いた好編である。0204/1018/286 四六上製カバー／二五〇〇円

人形芝居や中元の儀礼、様々な絵入り紙符に込められた民衆の祈り、残された旧中国の姿を遺った台湾・香港の調査行と、文献渉猟から描き出す民衆道教の実像。「道教とは何か」を知る最良の入門書。写真多数。「現地研究の歩み」を付す。0408/0992/318 四六上製カバー／二五〇〇円

楊 海英著

チンギス・ハーン祭祀

試みとしての歴史人類学的再構成

一三世紀以降、ハーンのみならず多くの人物を織り込みながら形成・伝承されてきた祭祀を、様々な文書や各地の口承から復原・再構成に挑んだ著作。近年の考古学的発見と相まって、その作業からは民族総体としての「歴史」が浮かび上がる。0412/1069/360 四六上製カバー／二五〇〇円

吉岡政徳著

反・ポストコロニアル人類学

ポストコロニアルを生きたメラネシア

自己批判の連鎖を起し、学界中央のブームは終息したかのように見えるポストコロニアルの論議を、コロニアルの場であり、議論の舞台（背景）ともなったメラネシア（研究）の立場から総括。その功罪を歴史的・理論的に検証する注目の書。0901/1042/292 四六上製カバー／二五〇〇円

楊 南郡著／笠原政治・宮岡真央子・宮崎聖子編訳

幻の人類学者 森丑之助

台湾原住民の研究に捧げた生涯

鳥居や伊能と並ぶアジア人類学草創期の巨人、唯一の探検家でありながら、膨大な資料を関東大震災で失い、その後謎の失踪。歴史上も学界からも忘れ去られていた存在を、台湾の研究者が長年の地道な努力で発掘。その業績と生涯を紹介。0307/1050/304 四六上製カバー／二五〇〇円

五十嵐真子・三尾裕子編

戦後台湾における〈日本〉植民地経験の連続・変貌・利用

五〇年に及ぶ植民地経験がもたらしたものは何か。戦後六〇年の歲月の中で様々に語られてきた「他者像としての日本」とその「支配」。コロニアルの言説を今読み解く。二〇〇五年、東京外大AA研での国際ワークショッブの成果。0603/0437/336 四六上製カバー／三〇〇〇円

楊 海英著

モンゴルとイスラーム的中国

民族形成をたどる歴史人類学紀行

開発に揺れる中国西北部は、イスラーム系一〇民族が全て住む地域でもある。その複雑な「モザイク」をモンゴルの視点で見た時、どのような時空が現れるのだろうか。現在の民族構図を作った歴史を現地でもたぐる、ユニークな民族興亡史。0703/1166/412 四六上製カバー／三〇〇〇円

林 史樹著

韓国サーカスの生活誌

移動の人類学への招待

華やかで哀しく、濃密で儂いサーカス団生活の悲喜こもごもを描く「近代的」「移動芸能集団の実相。外部社会との関係や内部統制、団員の個性・人生観などを、天幕生活の内側から見つめ、韓国人と社会の特質に鋭くせまる。0710/1173/236 四六上製カバー／二五〇〇円

山路勝彦著

近代日本の植民地博覧会

植民地博覧会とは、植民地で開催、あるいは植民地そのものを展示の主題にした博覧会のことであり、欧米諸国には見られない日本独自の形態である。その内容や図像をつぶさに見るとき、近代日本のアジアへの眼差しが如実に浮かび上がる。0801/1258/16+316 四六上製カバー／三〇〇〇円

石川栄吉著

欧米人の見た開国期日本

異文化としての庶民生活

幕末・明治初期、日本を訪れた欧米人は多くの記述を残している。「東洋神秘の国」を好奇・侮蔑・愛情さまざまな形で見つけたそれら記録を博覧会、当時の庶民生活を生き生きと再現。人類学の泰斗の残した「時空を超えた比較文化論」。0803/1210/254 四六上製カバー／二五〇〇円

品薄

S・コルキユフ著／上水流久彦・西村一之訳

台湾外省人の現在

変容する国家とそのアイデンティティ

戦後大陸から台湾に移住した人々は、旧支配層であり、「独立」に反対する「守旧派」と見なされている。本書は、知られざる彼らの実像を様々な手法でえぐり出したフランス人政治学者の好編である。解説（何義麟）や各種コラムを付す。0803/0428/264 四六上製カバー／二五〇〇円

笠原政治著

〈池間民族〉考

ある沖縄の島びとたちが描く自画像

宮古諸島の最北に位置する池間島は、池間大橋で宮古島と結ばれた観光の名所である。その住民には自らを「池間民族」と呼ぶ習慣があるが、けっしてそれは政治的な運動ではない。海に生きる人々から生まれた語りにも耳を傾けたユニークな民族誌。0809/1084/260 四六上製カバー／二五〇〇円

植野弘子・三尾裕子編

台湾における〈植民地〉経験

日本認識の生成・変容・断絶

当事者が高齢化し、「植民地」言説がさまざまに伝承・変質・風化していく一方、台湾社会は大きな変貌を続けている。本書はそうした中で、あえて行われた人類学的挑戦であり、フィールドにおける対話と自問自答から生まれた「台湾（人）」論である。1101/1746/350 A5上製カバー／三五〇〇円

呉 燕和著／日野ひとり訳

ふるさと・フィールド・列車

台湾籍人類学者の学問と人生の軌跡

三浦國雄編

術の思想

医・長生・呪・交霊・風水

田村克己著

レッスンなきシナリオ

ビルマの王権、ミャンマーの政治

白川千尋著

テレビが映した異文化

メラネシアの人々の取り上げられ方

陳 昭瑛著／池田辰彰・池田昌子訳

台湾と伝統文化

郷土愛と抵抗の思想史

吉岡政徳著

ゲマインシャフト都市

南太平洋の都市人類学

瀬川昌久・川口幸大編

〈宗族〉と中国社会学

その変貌と人類学的研究の現在

ババア・ニューギニア、東南アジア、中国の少数民族地区など四〇年余のフィールドワークをはじめ、台湾での生い立ちやアメリカでの学生生活、日本との交流など、東アジアの現代史を体現する知識人呉燕和 (David K. Wu) の回想。 121頁/1838/328 四六上製カバー/三〇〇〇円

陰陽五行説に基づく風水等の数理思考と吉凶判断の合体した知識体系¹¹術数は、永く雑学として貶められてきた。だがそれは民衆はおろか官僚、知識人にも染み込んだ学知であり、中国文化の豊饒の大地であった。三浦國雄教授古稀記念の野心的論集。 1310/1969/334 四六上製カバー/二五〇〇円

急速な民主化・開放が進む中、改革路線の向かうところとはどこなのか。歴史に徹底する権力の親念やそれを支える価値観、いわゆる文化としての国のかたちとは。人類学者としてその基層にあるものを凝視し続けてきた著者の、政治・文化・社会論。 1403/2033/336 四六上製カバー/二五〇〇円

創成期からテレビが茶の間に送り出してきた「異文化」映像はおびただしい。そうした映像による「刷り込み」が現地へのイメージを作り出している現実を、数十年にわたる資料をもとに多様に分析。「報道を覆い隠す」現実をえぐる。 1403/1456/224 四六上製カバー/二五〇〇円

伝統文化は、日本統治下の皇民化運動に抵抗しながら、世界の思潮の中で精錬され、さらに新文化運動によって転換の時代に向かった。本書は、内外の圧力との相互作用による伝統文化の自律的な変革を追った、注目論考群である。 1512/2163/384 四六上製カバー/三〇〇〇円

小さな町も都市であり、村とは違う生活が息づいている。「ゲマインシャフト(共同社会)としての村落」「ゲゼルシャフト(利益社会)としての都市」という二項対立的な世界観を打ち破る「ゲマインシャフト都市」の概念を提起。人類学からの都市論。 1602/2187/314 四六上製カバー/二五〇〇円

「宗族」という古典的テーマを軸に、実は今、中国社会は新たなうねりを見せている。街や村の襲に分け入り、人々の暮らしに密着し、変化と基調を見つめる手法から取り出された、中国社会の「現在」とは。 1603/2316/320 四六上製カバー/二五〇〇円

ミンガド・ボラグ著

「スーホの白い馬」の真実

モンゴル・中国・日本それぞれの姿

陳 昭瑛著／松原 舞訳

台湾儒学

起源、発展とその変転

黄 俊傑著／工藤卓司監訳・池田辰彰・前川正名訳

儒家思想と中国歴史思维

黄 俊傑著／藤井倫明訳

思想史的観点からみた東アジア

河口充勇著

覚醒される人と土地の記憶

「台湾シリコンバレー」のルーツ探し

植野弘子・上水流久彦編

帝国日本における越境・断絶・残像

人の移動

植野弘子・上水流久彦編

帝国日本における越境・断絶・残像

人の移動

植野弘子・上水流久彦編

帝国日本における越境・断絶・残像

モノの移動

世界有数のハイテク産業の集積地・新竹。日本統治時代その地には天然ガスを中心とした化学工業地帯があり、中核には天然瓦斯研究所があった。研究所中心メンバリーの一人・大内二三の証言をもとにした、現在につながる人と土地の物語である。 1903/2651/216 四六上製カバー/二五〇〇円

儒学は今も東アジア共通の文化基層をなし、各国を動かす大きな思想底流である。「華夷秩序」的構図を相互関係として再構築。検討により廃し、東アジア全体のダイナミックな相互関係として再構築。儒学研究をリードし続ける著者の最新業績。 1809/2657/272 四六上製カバー/三〇〇〇円

歴史思想の扱う事実の特殊性と儒家の理念が求める普遍性¹²両者の緊張関係を古今東西の事例から考察、中国思想の根源を探る。儒家思想において、「歴史」は図書館そのものである。人はその「図書館」の中で、古人と対話することができる。 1612/2347/388 四六上製カバー/三〇〇〇円

子供たちに親しまれている「民話」の誕生秘話。モンゴルの馬頭琴起源伝説「フー・ナムジル」や中国創作文学「馬頭琴」と対比しながら、経過と背景をたどり、馬を愛するモンゴル人の文化とモンゴル草原に憧れる日本人の心の歴史に触れる。 1610/2231/220 四六上製カバー/二五〇〇円

台湾儒学の真の力量とは何か。植民地支配と対峙した五〇年の歴史、四〇〇年に亘る台湾原住民文化との対話、儒学を相対化しながら世界思潮の中に位置し直した。ローカルにしてグローバルな視野からの台湾思想史。 1612/2364/358 四六上製カバー/三〇〇〇円

国境なき越境、その実像をモノから探る。内地と外地を厳しく分けながらも一体化をはかる強大な国家権力、複雑な境界線の中、統治下の台湾・朝鮮そして満洲まで軽々と渡りゆく人々。大東亜「グローバリズム」の実態を、人の側面から克明にたどる。 2002/2736/276 四六上製カバー/三〇〇〇円

国内なき越境、その実像をモノから探る。日表建築やモダン建築、石垣のバインナップや職人の道具など、いまもなお痕跡を残す統治時代のモノたち。その素性をたどると、支配とごうたテ軸の奥にさまざまな利害関係や深く交流があった。 2002/2743/316 四六上製カバー/三〇〇〇円

郝斌著／華立・姜若冰・伍躍・田中幸世訳

文革下の北京大学歴史学部

「牛棚」収容生活の回想

三尾裕子編

台湾における日本認識

宗主国位相の発現・転回・再検証

田中正隆著

アフリカの聞き方 アフリカの語り方

メディアと公共性の民族誌

北京大学元副学長の文革体験。「牛棚」(牛小屋)と呼ばれた収容施設の、屈辱と暴行と強制労働の三年間を時にユーモアを交え活写。被害者の教授陣だけでなく、加害者の学生たちをも冷静に分析。歴史家の洞察力に満ちた手記、犠牲者への哀惜と鎮魂の書 2003/156/2/304 四六上製カバー／三〇〇〇円

五〇年に及ぶ植民地経験がもたらしたものは何か。戦後長い歳月の中で様々に語られてきた「他者像としての日本」とその「支配」本書は、二〇〇五年の国際ワークショップにおいて、多様な事例をもとに報告された、日本の「実像」である。2010/176/0/320 四六上製カバー／二五〇〇円

民主化というマクロな社会変動をラジオの声から聴く。それは「おくる人」(きく人)「参加する人」それぞれが生が交錯する現場・縮図だ。メディアと政治・選挙、宗教の関わりを検討しつつ、現代モクラーシの課題を西アフリカ、ベナンから照射する。2102/291/0/284 四六上製カバー／三〇〇〇円

筧原政治他編(土田 滋・松澤貞子・末成道男述)

〈鼎談〉ひと・むら・ことは

戦後初期の台湾原住民族研究を語る

近刊

敗戦による長き中断以後、先駆けて現地調査に赴いた先達の鼎談を中心に、一九六〇年代後半から七〇年代当時の台湾原住民族研究、原住民族社会、台湾・日本の研究動向をふり返る。文字化されにくい肉声による証言は、貴重な資料である。 /2002/ 四六上製カバー／価格未定

●あじあ選書

*民衆の中で学ぶ——人びとの語る体験や知恵を、様々な方法で受け止め、咀嚼し、人びとに還元する——本シリーズはそうした試みのささやかな受け皿である。

上田 信著

ペストと村

七三二部隊の細菌戦と被害者のトラウマ

国家間の枠組み、ナシヨナリズムの連鎖から離れ、ペスト菌をまかれた村人の立場を歴史家として追跡。資料や証言から掘り上げた「真実」を出発点として描く、歴史と民衆との根本的齟齬。法の壁を叩く人びとの声を伝える、静寂のドキュメント。0909/135/1/244 四六並製カバー／一八〇〇円

井口淳子著

老師の恋

中国農村肖像画

近刊

中国に横たわる農村という民衆の大海。はからずもそこに分け入ってしまった女性研究者の見た人びとの豊富な生き様。かくも深く濃い、そして素朴な情感を湛えていられるのは何故か。珠玉のエッセイが描き出す老百姓(ラオバイシン)の肖像の数々 /1364/ 四六並製カバー／一八〇〇円

池田貴夫著

ウオツカとキムチをどうぞ

体制変化を生き抜いたサハリン朝鮮民族の文化

近刊

サハリンにかつての樺太には日本統治時代に移り住んだ朝鮮人が今も四方人ほど暮らしている。苦難の歴史にあって、彼らが失ったもの、ゆずれなかったものとは何か。本書は、現地訪問と聞き書きから、民族として生きる力となった「文化」をたどる。 /1463/ 四六並製カバー／価格未定

●あじあブックス

*研究者や大学・学界が発信する情報をコンパクトにまとめ、社会に還元するシリーズ。シンポジウムや講演会、イベントなどの成果を中心に、情報の双方向性を探る。

安井真奈美編

産む・育てる・伝える

昔のお産・異文化のお産に学ぶ

命の誕生という人間の営みで最も重要な場に、さまざまな問題が生じている日本。そこには現代社会の矛盾が端的に表れている。昔の、また異文化の出産を通して、「個人が」「病院で」「無事に」という固定観念をほぐす時、変革の一步が始まる。0910/650/5/202

A5並製カバー／一八〇〇円

日本建築学会編

フィールドに出かけよう!

住まいと暮らしのフィールドワーク

建築家の行うフィールドワークは実に多様である。熟達の経験者がそれぞれ目的、内容ごとに、道具や技法、そこから得られる成果、還元の方法を紹介しながら、フィールドワークをすることの楽しみや建築学における意義を伝える初の入門書。1203/652/9/214

A5並製カバー／一八〇〇円

岩間一弘・金野純・朱珉・高網博文編著

上海

都市生活の現代史

今や在住邦人アジアNo.1の上海。中国の最先端を疾走し、注目を集め続ける都市の来歴を、生活者の視点から読み直す社会史入門。多くの写真・図版を添え、多様な切り口で示す百年のエピソードから浮かび上がる、アジアン・メトロポリスの素顔。1204/653/6/352

A5並製カバー／一八〇〇円

●あじあブックス別巻

*内外の古典的名著を新たな視点で紹介するシリーズ。

T・フレイザー／岩淵聡文訳

タイ南部のマレー人

東南アジア漁村民族誌

一九六六年の出版以来、今日に至るも漁村研究の古典として利用される名著の初の邦訳。生業や社会の変容が始まりつつある時点の調査を踏まえ、マレー的、イスラーム的文化の相互作用や、タイ人との軋縁も含め初源的な因子が語られる貴重な論考。1203/184/6/218

A5並製カバー／一五〇〇円

馮爾康著・小林義廣訳

中国の宗族と祖先祭祀

宗族は血縁集団として中国社会を特徴づけ、いままも華僑や中国企業の背景で熾然とした影響力を持ち健在である。時代に応じた変化し続ける家族・宗族の歴史の展開を簡潔に記した好著の翻訳。1707/215/2/356

A5並製カバー／三〇〇〇円

費孝通著／西澤治彦訳

郷土中国

建国の前年(一九四八)に刊行された、「差序格局」(差序的な構造配置)モデルで知られる費孝通の重要著作を新訳。個人・家族・男女・血縁から、社会や国家まで鋭く本質をえぐり、中国社会の近代化への道筋を追究。今日も色あせない古典である。1903/266/8/272

A5並製カバー／二〇〇〇円

華雪梅著

徐福伝説と民俗文化

地域から東アジアとの交流を探る

秦の始皇帝の命により不老不死の仙薬を求め東海へ出航したとされる徐福。到来伝承は東シナ海一帯に残り、日本各地にも二〇数箇所では伝えられている。本書は、青森・和歌山・佐賀の伝承と現在から、東アジアの民俗文化の変容を考察した注目の論考。2103/279/8/400

A5並製カバー／三〇〇〇円

●風響社ブックレット

*研究の最新線をコンパクトに伝えるシリーズ。専門を著者自身が平易に読み解くものや余録、エピソードなどから、入門書、概説書まで、機動的に刊行していく。

水曜日 東アジア 日本 (1号)

野村伸一・岩松研吉郎・金井広秋著 元慶応教授らの「古いのたわごと」を雑誌にしたら……：古典・民俗・時事など、今日の東アジアと日本にかかわる意見・異見・卓見・短見。170/400/688 八〇〇円

豚を殺して偉くなる

メラネシアの階梯制社会におけるリーダーへの道

吉岡政徳著 おびただしい豚の撲殺が階梯の登攀に不可欠な社会。平和な島に残る一見奇妙な風習を、人類学の立場から読み解く。名著の著者自身によるダイジェスト版。1802/401/3/66 六〇〇円

水曜日 東アジア 日本 (2号)

野村伸一・岩松研吉郎・金井広秋著 崔承喜考(野村)、榕城家常雜記(岩松)、再訪(88)(金井)、わが日わが夢(金井)、朝鮮半島の積極的平和を考へる(野村) しめち帖・抜書(岩松) など。1902/402/0/72 八〇〇円

砂糖と移民からみた

「南洋群島」の教育史

小林茂子著 戦前のサイパン、パラオ、ポーンペイなどには十万人も日本人が暮らす一方で、「海の生命線」とも呼ばれ、熾烈な戦いの舞台となっていく。教育を通して統治と人々の暮らしを描く。1902/403/9/74 八〇〇円

日本統治下の教科書と

台湾の子どもたち

陳虹彰著 国語教科書を文字と挿絵から丹念に読み解き、その背景にあった政策の意図やその変遷、さらに描かれた内容から、当時の人々の暮らしまで分析。日本と台湾の近代を浮き彫りにする。1902/410/5/72 八〇〇円

青島(チンタオ)と日本

日本人教育と中国人教育

山本一生著 青島を知れば、日中問題の根っこが分かる。「対華二十一箇条要求」「五四運動」は青島を中心とする山東省の権益が大きな焦点であった。教育の現場からその数奇な足跡をたどる。1902/411/2/70 八〇〇円

文化人類学と現代民俗学

桑山敬巳・島村恭則・鈴木慎一郎著 学生や社会人、研究者にも、二つのミンソクガクの最新動向を分かりやすく伝える。一関西学院大学現代民俗学・文化人類学リブレットシリーズ第一弾。1904/412/9/100 九〇〇円

人類学者、台湾映画を観る

魏徳聖三部作の考察

沼崎一郎著 日台で話題となった魏徳聖監督の『海角七号』君想う、国境の南』『セデック・パレ』『KANO: 1931 海に向かうの甲子園』を人類学の立場から読み解く。/403-7/- 八〇〇円

ベトナムの社会誌

ドイモイ期の記憶の断片

寺本 実著 変貌する社会に暮らす人々の素顔。街角や道筋、市場や食堂、そして家族のありよう……。アジア経済研究所の調査の傍ら書き留められた、においや音の混ざる記憶の欠片たち。2001/414/3/100 九〇〇円

景观人類学入門

河合洋尚著 景观を「人間の記憶、意味、行為が埋め込まれた環境」とすれば、従来の工学的視点ではなく、人間学からの傍ら書き留められた人類学研究をリードする著者による初の入門書。2007/281/1/98 九〇〇円

水曜日 東アジア 日本 (3号)

野村伸一・岩松研吉郎・金井広秋・菅野扶美著 特集：追悼 岩松研吉郎。高名の木のはり(岩松)、私の知る岩松のこと(菅野)、岩松研吉郎「堀田善衛全集」書き入れ(金井)、曹国考(野村) など。2111/423/5/100 八〇〇円

●ブックレット〈アジアを学ぼう〉

①植民地台湾を語るということ
八田與一の「物語」を読み解く

改訂版

②東南アジア年代記の世界
黒タイの「クアム・トー・ムオン」

*アジアに留学した若き研究者達が、最新の成果を「読み切り」で発信。隣人とともに暮らし学んだ体験をもとに、新鮮かつ大胆な切り口で魅せる。(毎年二月刊行 A5並製 四八頁×八〇頁)
胎中千鶴著 今も「台湾農業の大恩人」と敬愛される技師の暮らしを生涯を追い、顕彰の経緯と背景から日台双方の語りの理由を考える。歴史教科書、歴史問題へのもう一つの視点。(追補改訂版) 2010/02/28/62 六〇〇円

③風水思想を儒学する

櫻永真佐夫著 王統譜に隠された価値体系とは何か。社会主義革命を経た年代記継承の転変をフィールドで追い、東南アジアの少数民族の波乱の歴史をたどる。0711/7261/66 八〇〇円

④清朝の蒙古旗人

その実像と帝國統治における役割

水口拓寿著 「百偽一真」などという儒教師からの批判の言説を克服する試みの中で次第に「構造改革」を成し遂げてきた風水。中国思想史の底流をなす巨大な「格闘技」を平易に示す。0711/7298/66 八〇〇円

⑤在日朝鮮人のメディア空間

GHI占領期における新聞発行とそのダイナミズム

村上信明著 モンゴル・チベット・新疆など、清朝の藩部統治の実務を担ったモンゴル旗人たち。その言語能力・仏教信仰の有り様を史料から克明にたどる。0711/7304/88 七〇〇円

⑥ビルマ古典歌謡の旋律を求めて

書承と口承から創作へ

小林聡明著 検閲や政治経済の激変の中で、民族の行く末を模索し続けた多様な在日のメディア群。米国に眠る膨大な資料に切り込み、祖国・民族・イデオロギーの混沌に越境の魂を探る。0711/7311/66 八〇〇円

⑦モンゴルの仮面舞儀礼チャム

伝統文化の継承と創造の現場から

井上さゆり著 「ビルマの竖琴」の音色とは何か。意外に重視される即興性・創作性、師関係の間で行われる技法の伝承。アジア伝統音楽の核心を、ミャンマー古典音楽に見る。0711/7328/8/58 七〇〇円

⑧演技と宣伝のなかで

上海の大衆運動と消えゆく都市中間層

木村理子著 社会主義化の激動の中、ラマ僧の肅清で断絶したチベット仏教の秘儀・チャム 観光向けとは別に、口伝による密教修会としてのチャム再興を追跡したドキュメント。0711/7335/66 八〇〇円

⑨バンコクの高床式住宅

住宅に刻まれた歴史と環境

岩間一弘著 戦前いち早くサラリーマン層を生み出した上海。文革に至る政治運動の激流に棹さし、迎合し、消え去った「早すぎた中間層」。彼らの「演技」と歴史の相克をつぶさに見る。0811/7339/66 八〇〇円

⑩タイの開発・環境・災害

繋がりから読み解く防災社会

中須 正著 環境社会学の立場からインド洋大津波の被害を分析。開発→環境破壊→災害(公害)というサイクルに替む人災の要因を指摘。被害を最小限にとどめる方策を探る。0811/7373/64 八〇〇円

⑪国民語が「つくられる」とき

ラオスの言語ナショナルリズムとタイ語

矢野順子著 近似する言語を持つ隣国タイ。その強大な政治・文化の磁場にとさらされ続けるラオスにとって、言語の独自性は独立の証しである。国民語を創り、守り育てる現場からのレポート。0811/7380/64 八〇〇円

⑫境界の考古学

対馬を掘ればアジアが見える

依 寛司著 戦前は要塞の島として閉ざされ、戦後は植民地なき日本考古学の眼が注がれた「辺境」。対馬。豊かな遺跡・資料を正視する時、そこには境界なき時代のアジアの躍動が浮かび上がる。08711/7397/60 七〇〇円

⑬ベトナム「おかげさま」留学記

「異文化」暮らしのフィールドノート

川越道子著 ホストファミリーに溶け込み、何気ない日々を過ごす者にとって、本当の異文化を理解するフィールドとは市民の中の日常生活であった。縁に感謝しつつ綴ったユニークな民族誌。0911/7403/88 八〇〇円

⑭法廷の異文化と司法通訳

中国籍被告人を裁く時

岩本明美著 裁判員制度により身近になった法廷。しかし、そこには法律以外に文化の壁が立ちはだかることがある。日中の裁判風景を比較しながら、裁くことの難しさや意味を考える。0911/7410/88 七〇〇円

⑮社員力は「文化能力」

台湾人幹部が語る日系企業の人材育成

宮本万里著 「環境にやさしい国」ブータン。しかし、その政策の現場では、生態環境に寄り添って暮らしてきた牧畜民の伝統生活を脅かす矛盾を生んでいる。人間と環境を辺境から問い直す。0911/7434/88 七〇〇円

⑯自然保護をめぐる文化の政治

ブータン 牧畜民の生活・信仰・環境政策

諫早直人著 古墳時代に移入された馬とその文化。同時代の朝鮮半島や中国東北部の考古資料を詳細に比較し、日本史最大の仮説の一つ「騎馬民族征服王朝説」の再考にも挑む野心作。1011/7441/68 八〇〇円

⑰海を渡った騎馬文化

馬具からみた古代東北アジア

馬具からみた古代東北アジア

⑮ インドの「闘う」 仏教徒たち

改宗不可觸民と亡命チベット人の苦難と現在

榎木美樹著 発祥地にもかかわらず1%に満たないインドの仏教徒たち。ヒンドウーの大海の中で、カースト制度や差別からの解放、またチベット独立に向けて活動する人々の実像を追う。 1011/7458/64

⑯ カザフの子育て

草原と都市のイスラーム文化復興を生きる

藤本透子著 ソ連崩壊後、中央アジアの大国として独立を果たしたカザフスタン。割礼、出生や命名の儀礼……。さまざまな過去に復活しつつある文化状況を家族の内面から描く温かなドキュメント。 1011/7465/88

⑳ はかりとものさしのベトナム史

植民統治と伝統文化の共存

関本紀子著 膨大な文献の中から幸運にも物価変動史料に巡り会った著者。以来、地域・時代で様々に異なる計量単位と格闘。度量衡の混沌の中で、頑固でおおらかなベトナムの不思議に迫る。 1011/7472/66

㉑ ミヤンマーの土着ムスリム

仏教徒社会に生きる

齋藤紋子著 古くはアラブやインドとの交易という彼らが、また植民地時代に流入したムスリムたち。人口の一割を占めるという彼らが、さまざまな軋軋の中、この国を故郷として生き抜く姿を描く。 1011/7489/62

㉒ ミヤンマーの女性修行者ティラシシ

出家と在家のはざまを生きる人々

飯國有佳子著 比丘尼(びくに)、女性出家)への道が断たれた上座仏教において、今も剃髪し戒を保持し厳しい修行に励むティラシシたち。聖俗の境界に生きる彼女たちの労苦と矜持とは。 1011/7496/64

㉓ ミヤンマー農村とマイクロファイナンス

貧困層によりそう金融プロジェクト

布田朝子著 グラミン銀行が始めた貧困層への小口融資システム。その実際の動きを、借りの側から詳細に聞き取り、その効果を立体的に検証。貧困からの脱出の道筋を現場から探る。 1011/7502/62

㉔ 中国・ミヤンマー国境地域の仏教実践

徳宏タイ族の上座仏教と地域社会

小島敬裕著 ミクロな地域から見ると仏教のダイナミズム。国境をまたいで生きてきた人びとにとって国民国家の枠組みは一つの範疇に過ぎない。民族や宗教の動態を地域社会の文脈から読み解く。 1112/7519/68

㉕ スターリン期ウズベキスタンのジェンダー

女性の覆いと差異化の政治

須田 将著 スターリン体制下「女性解放」の一面面。ムスリム女性の覆いに象徴される「旧習」の撤廃を目指す政策はウズベク人のロカルな生活の中で人びとをどのように差異化したのか。 1112/7526/68

㉖ チベット人の民族意識と仏教

その歴史と現在

日高 俊著 中国の仏教弾圧によりチベット人の民族意識は強化され、チベット仏教の平和思想ゆえ独立運動は抑制される。政治と宗教を同じ土俵に載せない奇妙な対立の構図を現場から検証。 1210/7564/56

㉗ たけしに暮らした日本人たち

韓国慶陵島の近代史

福原裕二著 江戸時代の日本人が「竹嶋」と呼び、明治以降は日朝の漁民らが共住、今や韓国でも高所得の難島となった慶陵島。「竹嶋」から九〇キロほどの島の知られざる歴史をひもとく。 1311/7588/64

㉘ 文書史料が語る近世末期タイ

ラタナコーシン朝前期の行政文書と政治

川口洋史著 明治日本と同時期に近代化を進め、「西洋の衝撃」に耐えたタイ。そうした国家の基盤は実は近世に形成されていったのではないだろうか。「停滞の近世」のイメージを史料から再考。 1311/7595/68

㉙ インドにおける代理出産の文化論

出産の商品化のゆくえ

松尾瑞穂著 身体の商品取引とケアワークが一つの母胎をめぐり顕在する代理出産。国境を超えたメディアカル・ツーリズムの一大拠点となったインドの現実を、社会空間と現場レベルから見つめる。 1311/7601/56

㉚ 中国の音楽論と平均律

儒教における楽の思想

田中有紀著 調和の音律こそ政治の安否。限りなく世の不安を刺す。その探究は、欧州に先んじての音でもその音でもその音でもその音でもその音でも。天・地・人すべてを結ぶユニークな理念を紹介。 1410/7717/58

㉛ インド人ビジネスマンとヒンドゥー寺院運営

マールワリーの慈善 喜捨 実利

田中鉄也著 宗教ビジネスでもなければ、盲信でもない。経済発展を牽引する地縁・血縁集団と寺院との関わりから見える。現代インド社会の断面。多様な受け皿を担う寺院運営組織の現在を繙く。 1410/7724/52

㉜ 越境するアイデンティティ

黒タイの移住の記憶をめぐって

岡田雅志著 民族のアイデンティティは一つか。多難な歴史に蹂躪されたベトナム少数民族として、今や世界に離散した黒タイ。それぞれの自己認識、歴史の違いを見つめ、民族とは何かを問う。 1410/7748/68

㉝ カンボジア山村の救済児童

ヤムイモから見た食の自給の歴史と現在

石橋弘之著 内戦の極限状態の中、人々の生を支えた食物「クドイ」。極限状態の非常食から、市場経済のもと軽食・補助食とされる現在までを概観し、人間・社会にとっての「食」のあり方を問う。 1410/7748/68

㉞ バングラデシュのマイクロ医療保険

貧困層のセイフティ・ネット戦略を探る

石坂貴著 「収入が少ないこと」ではなく、病気や事故等によって「収入源を失う」事例に着目。暮らしを守る手立てとしてマイクロ医療保険の有効性を詳細に調査・分析。 1510/7793/60

㉟ 前問恭作の学問と生涯

日韓協約の通訳官、朝鮮書誌学の開拓者

白井 順著 朝鮮学の基礎を築いた在野の研究者。前問恭作の人生をたどる。外務省の通訳官として歴史の舞台を演出し、「韓語通」「古朝鮮語」などの著作を残し、後半生を朝鮮書誌研究に捧げた。 1510/7809/58

③6 国家建設と文字の選択
ウスベキスタンの言語政策

③7 亡命者の二〇世紀
書簡が語る中央アジアからトルコへの道

③8 チベットのロックスター
仏教聖者ミラレーバ 魂の声

③9 民族共存の制度化へ、少数言語の挑戦
タイとヒルマにおける平地民モン言語教育
運動と仏教僧

④0 ラオス焼畑民の暮らしと土地政策
「森」と「農地」は分けられるのか

④1 社会の中でカンボジア仏教を生きる
在家修行者の経験と功德の実践

④2 戦争と難民
メコンデルタ多民族社会のオーラル・ヒストリー

④3 韓国農楽と羅錦秋
女流名人の人生と近現代農楽史

④4 タイ現代文学覚書
「個人」と「政治」のはざまの作家たち

④5 タイ国王を支えた人々
プーポン国王の行幸と映画を巡る奮闘記

④6 二〇世紀前半インドネシアの
イスラーム ミアヒとインドネシ
ア・ムスリムの連携

④7 消えない差異と生きる
南部フィリピンのイスラームとキリスト教

④8 ソウル大学校で韓国近代史を学ぶ
韓国留学体験記

④9 ジャイナ教とは何か
菜食・托鉢・断食の生命観

⑤0 世俗主義と民主主義
家族法と統一民法典のインド近現代史

① 出稼ぎ国家フィリピンと残された家族
不在がもたらす民族の共存

② 転流
アム川をめぐる中央アジアとロシアの五〇年史

③ ムラからカンペンへ
京都郊外の先住者がみたジャカルタ郊外の集落

淺村卓生著 ソ連時代に、アラビア文字→ラテン文字→キリル文字→ラテ
ン文字と三度の変更。今日も、キリル文字とラテン文字が並存。中央アジア
の大国の近現代史を、文字改革の変転からとる。1510/784/64 81000円

小野亮介著 ソ連初期の動乱によりトルコ系民族の知識人・エリートが多く
は亡命者としてトルコ・中西部などに目指した。本書は彼らの書簡から
読み解いた、近現代ユーラシア裏面史である。1510/783/88 81000円

渡邊温子著 二一世紀チベットの聖者・ミラレーバの人生と思想。各地を
遊行し、瞑想修行に明け暮れ、大いなる悟りを得る。その歌は魂の叫びそ
のものであり、聞く者の心を強く揺り動かす。1510/783/80 61000円

和田理寛著 東南アジア大陸部において、先住の文明人として存在感を持
つモン。同化の圧力が高まる現在、自らの言語を保持する制度を持ち得たビ
ルマ。その事例を通し、モン歴史や文化に迫る。1610/785/87 81000円

東 智美著 伝統的な循環の利用で森と共生してきたクムの人々。焼畑が
環境破壊の原因とされる現在、焼畑民の暮らしは大きく変わった。共生可
能な森林管理を目指すNGOの動きを追う。1610/785/88 81000円

大坪加奈子著 戒の保持、布施、儀礼への参加、寺院や僧侶の手助け、他
者の援助など、さまざまに「功德」を実践する人びと。その経験や日常から
地域社会の共同性との連動を探る。1610/789/66 81000円

下條尚志著 戦争や貧困から人の移動が起こり、民族や言語、宗教の異な
る人々の接触が生まれやがて新たな社会関係が築かれていく。地域社会の
再編を歴史と語りからダイナミックに描く。1610/790/88 81000円

神野知恵著 解放後の韓国で大衆の人気を博した女性農楽団。その希有な
リアルタイム公演へと発展していく村祭り芸術「農楽」がプロフェッショ
ナルの興行公演へと発展を遂げる。1610/791/64 81000円

福富 涉著 同時代の文学として生成する今日のタイ文学を俯瞰。作家
編者・研究者との対話、多くの作品の渉猟から生み出された本書は、お
そらく世界初の「タイの現代文学史」である。1712/793/97 81000円

櫻田智恵著 陛下の宣伝部長とそのイメージ戦略。ぶっつけ本番だった初
期の行幸。美しき奉迎風景は国民の敬愛を産みだし、「陛下の映画」によ
り国王は「国の象徴」となった。1712/794/66 81000円

土佐林慶太著 独立と信仰の尊厳を目指して。オランダの統治から日本の
軍政期、外来の支配者に服従と抵抗を対応するムスリムのたどる動き。独立
を準備した時代の精神を活写。1712/793/70 81000円

吉澤あすな著 マラナオ族の家庭に住み込んだ若者。ラマダンやクリス
マス、恋愛・結婚二日目の妻。明るく開けつづるげな庶民の暮らしに潜む
綺麗ごとじゃない日常のリアリティを描く。1712/796/08 81000円

森 万佑子著 現地学生と肩を並べて学んだ日々。「植民史学」「内在的発
展論」「植民地近代化論」…深化する学史。厳しい博士課程の講義と、楽
しいキャンパスライフを描く。1712/797/78 71000円

上田真啓著 虫も殺さぬ宗教、その真実に迫る。ヒンドゥー教・仏教と並
ぶインドの伝統的宗教。知られざる教義と歴史、出家と在家の実践、そし
てその独自の生命観を食生活を通して紹介。1712/798/54 71000円

藤音晃明著 宗教ごとの法律が新たな分断を生み出す現代インド。建国の
理想・統一民法典への道のりは遠い。「世界最大の民主国家」であるがゆえ
の矛盾は克服されるのか。1810/404/68 81000円

白石奈津子著 虫も殺さぬ宗教、その真実に迫る。ヒンドゥー教・仏教と
並ぶインドの伝統的宗教。知られざる教義と歴史、出家と在家の実践、そ
してその独自の生命観を食生活を通して紹介。1810/405/46 61000円

塩谷哲史著 かつてヒョートル一世がカスビ海への転流を企図したアム川。
複雑な地政学的理由によるこの壮大な構想は、数奇な運命を辿り今も生き
ている。1910/415/60 71000円

中村昇平著 共感の「比較」都市研究。異なる生活経験を持つもの出合い、
そこに生まれる共感を手がかりに、眼前の社会現象を捉えようとする。新
たな試みである。1910/416/76 61000円

㉔ 越境する〈発火点〉

インドネシア・ミュージシャンの表現世界

金 悠進著 ハリー・ルスリのアルバム『発火点』との出会い。ロックと伝統音楽を融合させた1970年代の楽曲は、現代インドネシア社会の様々な断面を切り取る「導きの書」でもあった。 2010/287/370 八〇〇円

㉕ 朴泰遠を読む

「植民地で生きる」と朝鮮の近代経験

相川拓也著 代表作「小説家仇甫氏の一日」「路地の奥」に描かれた市井の人びと。一九三〇年代の京城に蠢くモダニズム、独立運動、左翼思想……、混沌の中から文学、そして作家が生まれた。 210/286/5/62 七〇〇円

㉖ フィリピン女性たちの流産と中絶

貧困・贖罪・ポリテクス

久保裕子著 妊娠・出産は、中絶が違法とされる国では複雑な局面が立ち現れる。宗教的「罪」とその償い、貧困と流産・中絶、生命や女性の権利……、女性たちの困難な選択に寄り添う。 210/302/3/62 六〇〇円

●ブックレット〈アジアを学ぼう〉

別巻シリーズ

*留学先がアジア以外のものを別巻シリーズとして刊行。研究の最新線の情報を、多彩なジャンルから紹介。
《毎年一月刊行、A5並製、四八〜一〇〇頁》

① デジタル・ヒストリー

スタートアップガイド

宮本隆史著 コンピュータで歴史を共有する。過去を分析・共有するためのオープンな研究の環境を目指し、資料のテキストデータ化・コード化の作業に必要な知識を身につけるための入門編。 112/753/64 八〇〇円

② ジェンネの街角で人びとの語りを聞く

マリの古都の過去と現在

伊東未来著 人びとの肉声からアフリカの佇まいが見える。一三世紀初頭、コインボロ王の改宗以来、ムスリムの町としての長い歴史を刻み、今や多民族が共生するジェンネの今を読み解く。 112/754/0/36 七〇〇円

③ フランス語圏カリブ海文学小史

ネグリチユードからクレオール性まで

中村隆之著 「われわれは自分たちがクレオールであると宣言する。文化の混濁性を積極的に肯定した『クレオール礼賛』（一九八九）をはじめ、主要作品を概観。フランス海外島の現代文学の歩みを紹介。 112/757/88 八〇〇円

④ もつとアジアを学ぼう

研究留学という生き方

水口拓寿 胎中子鶴編 一年から数年にわたりひとつの地域に住み込み、フィールドワークや資料収集に没頭する生活。単なる学生生活や海外赴任では見えない、ディープな体験とは、多分野のOBが語る。 1210/757/56 七〇〇円

⑤ アンデス高地にどう暮らすか

牧畜を通じて見る先住民社会

若林大我著 三〇〇〇メートルの高原にラクダと暮らす。リヤマ・アルパカなど四種のラクダ科動物の牧畜を始め、標高によって多様な暮らしを使い分けて生きる人々を追った、生態人類学の試み。 1410/775/5/68 八〇〇円

⑥ M B A たちの中米変革

国際学術協力による地域経済統合

苗田千容著 「周辺のブルジョワジー」から「地域ブルジョワジー」へ。従来の開発独占から、グローバル化に運動する経済エリート達の政経再編の時代へと移行する。中米の現在を読み解く。 1410/776/2/60 七〇〇円

⑦ ムバラーラクのピラミッド

エジプトの大規模沙漠開発「トシユカ計画」の論理

竹村和朗著 「沙漠を緑に」の夢と現実。一九七七年に始まる壮大なプロジェクトは「一月革命」とともに頓挫してしまっただか。多くの利害関係とられ今も立ち尽くす巨大プロジェクトの意味を問う。 1410/777/9/64 八〇〇円

⑧ アラビアン・ナイトの中の女奴隷

裏から見た中世の中東社会

波戸愛美著 愛・美貌・献身……。生き生きと女性が活躍する物語として知られる千夜一夜物語。中でも女奴隷たちの多様な生き様は、当時の庶民生活を偲ばせる貴重な史料といえる。ユニークな中東社会史。 1410/778/6/66 六〇〇円

⑨ アルゼンチンのユダヤ人
食から見た暮らしと文化
宇田川彰著 多様な来歴や習慣を持つ二〇〇万の人々。日常食からは習性を、儀礼食からは信仰心を感じ取りながら、ユダヤ人とは何か、彼らにとっての自分たち自身とは何かを考察。 1510/754/766 八〇〇円

⑩ ベルギー山村のチーズ生産者
暮らしの中の経済戦略
古川勇氣著 世帯経営であつても市場経済と結びつて現代。生産者や酪農家の家族や個人にアプローズ。グローバル経済とリンクされた零細酪農家の日々の意思決定に迫るユニークな試み。 1510/785/488 七〇〇円

⑪ 君主制と民主主義
モロッコの政治とイスラームの現代
白谷 望著 「アラブの春」以降、独裁政権が倒れ混乱に陥つた国、戦争状態の国、テロが頻発する国はすべて共和制である。君主制諸国はほぼ安定している。アラブの王制はなぜ倒れないのか。 1510/786/196 七〇〇円

⑫ ブラジル民主主義の挑戦
参加型制度の実践と社会変容
佐藤祐子著 ポビエリズムの跋扈、国民投票の危うい選択、民主主義の機能不全があらわになった今世紀は、政治への市民参加の時代でもある。参加型ガバナンスの分析からその可能性を探る。 1610/792/264 八〇〇円

⑬ そして人生は続く、
あるベルシヤ系ユダヤ人の半生
辻 圭秋著 イランで生い立ち、平穏な暮らしを突如襲った歴史的転換。革命、戦争、そしてバクスタンからイスラエルへの決死行。「約束の地」での暮らしは。激動と波乱の人生を聴く。 1712/799/166 八〇〇円

⑭ 移民大国ヨルダン
人の移動から中東社会を考える
白杵 悠著 石油は観光資源もない小国ヨルダン。しかし、ここにはパレスチナ・シリアをはじめ、多くの移民・難民・客人が来住している。さまざまな移動からひもとく中東入門。 1810/406/870 六〇〇円

⑮ 宣教と改宗
南米先住民とイエズス会の交流史
金子亜美著 複雑な民族・言語状況の中、布教のツールとなったのは先住民をも魅了する音楽であった。慣習とキリスト教の相互の再解釈。『「接触」の歴史は文化として今も根付いている。』 1810/407/576 六〇〇円

⑯ 語り合うスンナ派とシーア派
十一イマーム崇教から中世イスラームを再考する
水上 遼著 「美質の書」に語られる十二イマームというイスラーム初期指導者の崇教。それはシーア派・スンナ派それぞれの信仰世界を作り上げてきた。新たなイスラーム史を展望する好著。 1910/417/488 八〇〇円

⑰ ポリビアの先住民と言語教育
あるベシ口語(チキタノ語)教師との出会い
中野隆基著 アンデス高原とアマゾン低湿地帯からなる南米の内陸国ポリビア。本書は、その東部低地のチキタニア地方の言語教育に焦点をあて、多文化・多言語の国の歴史や文化を紹介。 1910/418/154 六〇〇円

⑱ 音楽を研究する愉しみ
出会い、はまる、見えてくる
金子亜美・小倉志穂・神野知恵・田中有紀・井上さゆり著 南米・タイ・韓国・中国・ミャンマー。現地の音楽との出会い、その魅力にはまってしまう著者たち。その実践と学びを語り合う。 1910/419/888 九〇〇円

⑲ エルサレムのパレスチナ人社会
壁への落書きが映す日常
南部真喜子著 国際政治の狭間に置き去りにされながら、理不尽な立場を生き抜く人びと。超えがたい壁に日々書き付けられるグラフィティからは、彼らの心の奥底からの叫び声が聞こえてくる。 2010/284/266 八〇〇円

⑳ ルワンダの今
ジェノサイドを語る被害者と加害者
片山夏紀著 重いわだかまりを、人間はどう乗り越えるのだろうか。現地には、バナナビールやガチャチャ裁判といったアフリカならではの方法があった。隣人たちの心の葛藤とその背景に迫る。 2010/285/954 六〇〇円

㉑ 旅する看板絵
ガーナの絵師クワメ・アコトの実践
森 昭子著 文字や絵が「爆発」し、呪術は道行く人びとを動かす。そんなアートな街に惹かれ、師匠の工房に飛び込んだ弟子連れの著者。制作現場から、欧米主導の現代美術の立ち位置に迫る。 2010/286/672 八〇〇円

㉒ 「亡国の越境者」の二〇〇年
ネットワークが紡ぐユーラシア近現代史
小野亮介・中西雄二・岡野翔太・瀬戸徐映里著 白糸ロシア人・タタール人・華僑・ベトナム難民……。越境者たちが歴史を紡いできた日本。神戸・姫路はユーラシアの「覗き穴」であった。 2010/288/0/100 九〇〇円

㉓ 或る中世写本の旅路
イブン・ハルドゥーン『イバルの書』の伝播
荒井悠太著 各国に残る数多の『イバルの書』写本。その来歴を「モノ」としてつづさに追ひ、「思想」の伝播の実際に迫る。主著の道行きから『文明史家』イブン・ハルドゥーンを再考する。 2110/297/266 七〇〇円

㉔ ムスリム捕虜の語る近世の地中海
マルタの「海賊」とオスマン朝のはざままで
末森晴賢著 一六世紀後半の地中海は、キリスト教徒もムスリムも掠奪行為を繰り返す海域だった。マルタ私掠船に連行されたオスマン人の語りから、知られざるムスリム虜囚の足跡や心情を探る。 2110/298/976 八〇〇円

㉕ 「越境」する改宗者
モリスコの軌跡を追って
押尾高志著 「レコンキスタ」の結末として、強制改宗させられたムスリム。モリスコは、やがてスペインから追放ムスリム社会でも苦難に直面する。複雑なアイデンティティとディアスポラを描く。 2110/299/688 八〇〇円

㉖ 貝殻が語る環境と人
ペルーの海と先史時代の漁撈民
荘司一歩著 海から見たもう一つのアンデス文明。動物考古学の手法を通して、沿岸部から出土する貝塚や遺物から紀元前四〇〇〇年頃の人々の資源利用や環境変化を描く。ユニークな報告。 2110/303/0/64 七〇〇円

●文化人類学ブックレット(全10巻)

*京都文教大学(旧)文化人類学科による入門シリーズ。フィールドワークの魅力満載。人類学の本質に迫る。完結。

1 ラグビー&サッカーinフィジー
スポーツをフィールドワーク

橋本和也著 フィーアン・マジックで知られる独特のスタイルを人類学の目で捉える。そこにはインド系とフィジー系のラグビーがあり、ヨーロッパ・スポーツの土着化があった。0638/7618/30 五〇〇円

2 サリリー! サリリー! サリリー!
インド・ファッションをフィールドワーク

杉本皇子著 発展著しいインドはファッション大国でもある。伝統的の衣装・サリリーを、「読む」「歩く」「見る」「聞く」というフィールドワークの基本行動から読み解き、インドの現在を探る。0909/7625/76 七〇〇円

3 移民 in オーストラリア
移動をフィールドワーク

村上優子著 移民の国オーストラリアでも少数派のコブト人のコブト派・キリスト教徒の暮らしを通して、人の移動のさまじまあり方を考える。0808/7632/36 六〇〇円

4 名づけの世相史
「個性的な名前」をフィールドワーク

小林康正著 少子化とはいえ、毎年百万人以上生まれる赤ん坊。近年、珍しい名、難読名が急増している現象を、民俗学的手法で分析。個性とは、家族とは、そして現代社会とは、を問う直す。0909/7619/72 七〇〇円

5 中国系移民の故郷認識
帰還体験をフィールドワーク

奈倉京子著 華僑・華人として海外進出が注目される中国系移民だが、錦を飾つての帰国、再移民、循環的交流など、故郷とのつながりは多様で複雑だ。様々な帰還の形と背景を動的に探る。1103/7636/72 七〇〇円

6 インドネシアの学校と多文化社会
教育現場をフィールドワーク

金子正徳著 二億余の人口が世界最多の島嶼群に暮らすインドネシア。最大のイスラム教国でありながら、文化の多様性は国是ともなっている。地方の教育現場から見る多文化社会の実像。1103/7636/34 六〇〇円

7 海辺のカラオケ・「おやじ」のフォーク
高齢社会の音楽をフィールドワーク

馬場雄司著 自然発生、あるいは行政やボランティアにより、各地に生まれている、音楽を通じた交流の場。一漁村、都市近郊コミュニティの事例を通じ、日本の高齢者社会の断面を描く。1103/7619/36 六〇〇円

8 フィールドワーク2.0
現代世界をフィールドワーク

品切 佐藤知久著 グローバル化・メディア化・個人化という現代社会では、もはやかつての「民族文化」を対象とした人類学は成立しない。二一世紀の人類学の意味を問い、新たな方法を提言。1303/7701/74 八〇〇円

9 生き残り! 日本の職人文化
日本の鍛冶屋をフィールドワーク

齋藤貴之著 いつの間にか姿を消してしまふ業種。その理由は何か。生き残りする、フィールドワークの面白さ。1303/7694/50 六〇〇円

10 自然災害と社会・文化
タイのインド洋津波被災地をフィールドワーク

小河久志著 調査地で実際に遭遇した津波。被災地に身を置き体験した多面的・長期的な被害と複雑な復旧・復興の現実。政治・経済・宗教など様々な局面から「災害」の全容に迫る。1303/7687/30 六〇〇円

●雑誌

台湾原住民研究会編

台湾原住民研究 1~24号

ベトナム社会文化研究会編

ベトナムの社会と文化 1~8号

比較日本文化研究会編刊

比較日本文化研究 1~20号

韓国・朝鮮文化研究会編刊

韓国朝鮮の文化と社会 1~20号

モンゴルと東北アジア研究編集委員会編

モンゴルと東北アジア研究 1~6号

中国大陸古文化研究会編

中国大陸古文化研究

〈合冊復刻・第一~十集〉

近年、発展著しいベトナムだが、政治・経済や観光情報以外は未知の部分が多い。本誌は、人類学をはじめ未開拓だった社会研究の拠点として創刊論文、資料、翻訳、さらに学際的交流の場として多彩なエッセイを収録する。8号で休刊。 A5並製カバー/三五〇〇円

国際的・学際的視野からの日本文化研究・人間文化研究を目指し、大阪大学文学部日本学研究室の修士を中心し創刊。大学や国籍の枠を越え、また、内外多様な地域文化を対象とした論文により、ユニークかつ充実した内容を維持している。(年刊・20号で休刊) A5並製/一五〇〇円

人類学や歴史学を中心に、フィールドと文献、共時的関心と通時的関心、地域研究と比較研究など、幅広い視点を含む学際的研究の拠点として創刊。特集論文・論文・研究ノート・資料・書評に加え、本の紹介、展評、劇評、エッセイなど多様な情報を掲載。(年刊) A5並製/三五〇〇円

華南民族学・大陸東南アジア研究の原点となった学術誌(一九六五~八〇年刊行)を復刻。民族・歴史を中心に、考古・神話・民話・言語・美術など、当時鋭敏の研究者が学際的に行った地域研究は今日の基本文献。八〇〇頁。付録目次。9638/417/8038 B5上製函入/一八〇〇円

活動：風響社は、主としてアジア・太平洋地域の歴史・民俗に関する専門書を刊行する出版社です。1991年創業以来、台湾やベトナムをはじめ、大文明周辺諸地域の社会・文化研究の発信に力を注いできました。紙の本から電子の本、そしてネットの本へと移行しつつある時代にあたり、よりインターナショナルで、インタラクティブな活動を目指すつもりです。

SOHO：小社の特徴の第一は、SOHOであること、すなわちスタッフも資金も少ない小規模出版社であることです。これは、大量生産大量消費の大勢には不利ですが、逆に組織維持の経費が少ない分、効率的に目標のみを追求できるメリットもあります。元来が少数種・多品種である専門書の中でも、周辺分野に位置づけられるテーマを手がけるには、いい形態の一つと考えます。

DTP：第二の特徴は、創業以来一貫してDTPによる組版を行ってきたことです。これは、多言語対応や編集作業の合理化はもちろん、マルチメディアやネットワークパブリッシングといった新しい出版の形態への対応にもつながります。今後も小さなデスクトップから、著者・読者、印刷・流通などの多様なリンケージに可能性を探っていきたいと思います。

WEB：第三の特徴は、WEBな主題を目指すことです。「周辺から中心を見る／中心から周辺を見る」ような社会・文化研究は「蜘蛛の巣」のような相互連関を見つめることであり、「水かき」のように水面下の地道な作業でしょう。小社の活動が、そうした貴重な研究成果のネットワーク構築に少しでも貢献できれば幸いです。

以上は設立10年目を迎えた2001年のご案内です。SOHOなどいささか古くなった語彙も混じり、アジア・太平洋から今はアフリカや中南米の書目も増えてきましたが、基本は変わっておりません。どうぞよろしくお願いたします。

風響社から本を出したいと思われる方のために、小社の受け入れ態勢をお知らせいたします。

- 1) 小社は基本的には「アジア関係の歴史・民族・宗教を中心とした学術書」をメインとしておりますが、その他の地域・分野でも社主が面白いと思ったものは刊行しております。
- 2) ただ、ごく小規模な出版社ですので、受け入れられる種類・内容にはおのずと限度があります。およそは小社のこれまでの刊行物から推測して頂きたいのですが、よく分からない場合にはとりあえず打診して頂いて結構です。
- 3) ご提案・打診される場合には「原稿」「著者」「ご希望」等に関する情報が必要です。(情報があれば、原稿本体は必ずしも最初からお送り頂かなくて結構です。)
- 4) よそで断られた場合でも、小社では独自の判断をいたしますのでご安心下さい。ただ、同時に他の出版社にも打診されている場合、あらかじめお知らせ下さい。
- 5) 逆に規模が小さいがゆえの問題もごございます。刊行をお急ぎの場合には良い原稿でも、手いっぱいでお受けできない場合もごございますので、最初にご相談下さい。
- 6) ご自身でもそれほど多くの部数が売れないと思われる場合には、製作費補填の心づもりをお知らせ頂くと検討に幅がでます。もちろん、良い原稿であれば売れ行きがそれほど期待できなくても、なんとか刊行の道を探ろうというスタンスを持っております。
風響社は熱意ある著者と、ともに本づくりすることを何よりも大切にしたいと思っております。意欲的な原稿・企画のご提案をお待ちいたしております。

ご注文について

- 小社の書籍は注文制です。お近くの書店にお申し込みください。ネット書店もご利用いただけますが、小社に在庫があっても取り寄せはしてられません。
- 直接小社にご注文いただく場合は、ホームページの「問い合わせ」フォームにて事前にお問い合わせ下さい。送料を含めた総額と払い込み方法をお知らせいたします。入金確認次第、送本いたします。
- [書店様へ] 小社の書籍は地方・小出版流通センター扱いです。ご注文の際には、「地方・小扱い」と記入して取次に回して下さい。より早く確実です。

風響社

東京都北区田端 4-14-9 (〒114-0014)
TEL: 03-3828-9249 FAX: 03-3828-9250
URL: <http://www.fukyo.co.jp>

